

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年9月11日
【計算期間】	第10特定期間 （自平成28年12月13日 至 平成29年6月12日）
【ファンド名】	アジア・オセアニア好配当株オープン（毎月決算型）
【発行者名】	三菱UFJ国際投信株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 松田 通
【本店の所在の場所】	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【事務連絡者氏名】	伊藤 晃
【連絡場所】	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
【電話番号】	03-6250-4740
【縦覧に供する場所】	該当ありません

## 第一部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

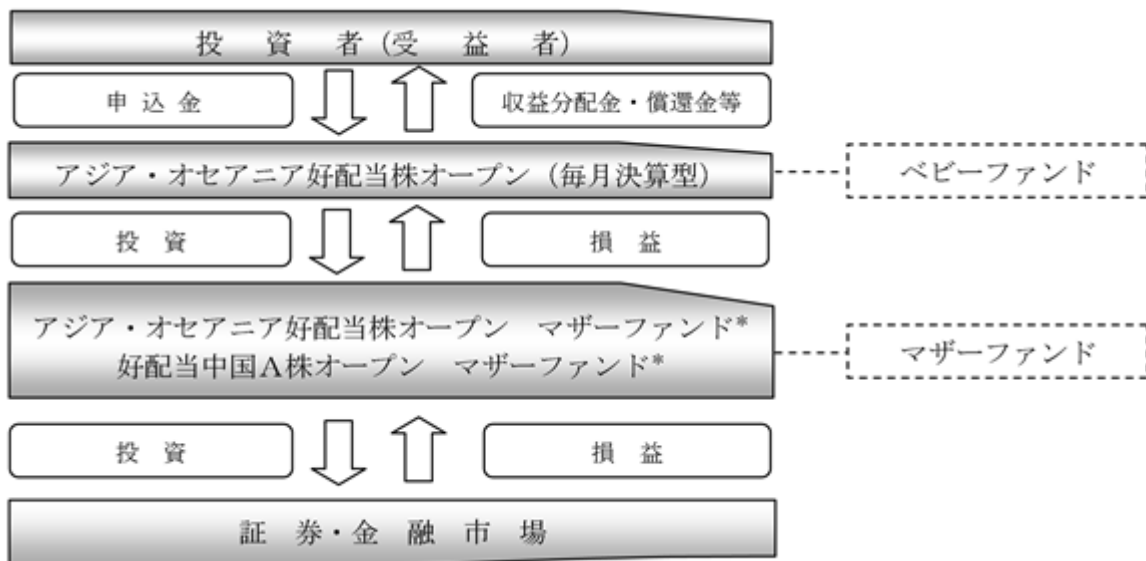
#### 1【ファンドの性格】

##### (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの目的

ファミリーファンド方式<sup>\*</sup>により、信託財産の成長を目指して運用を行います。

<sup>\*</sup> ファミリーファンド方式とは、受益者から投資された資金をまとめた投資信託をベビーファンドとし、その資金の全部または一部をマザーファンドに投資して、マザーファンドにおいて実質的な運用を行う仕組みです。



<sup>\*</sup> 「アジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンド」、「好配当中国A株オープン マザーファンド」については、以下、総称して「マザーファンド」という場合があります。

信託金の限度額

2,000億円です。

<sup>\*</sup> 委託会社は、受託会社と合意のうえ、信託金の限度額を変更することができます。

基本的性格

一般社団法人投資信託協会による商品分類および属性区分は、以下の通りです。

商品分類表

単位型・追加型の別	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉となる資産)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
		不動産投信
追加型投信	内外	その他資産
		資産複合

(注) 該当する部分を網掛け表示しています。

## 該当する商品分類の定義について

追加型投信	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
海外	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
資産複合	目論見書又は投資信託約款において、株式、債券および不動産投信（リート）およびその他の資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とするものをいう。

## 属性区分表

投資対象資産 （実際の組入資産）	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回	グローバル		
	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリー	あり
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性	年6回（隔月）	欧州	ファンド	
	年12回（毎月）	アジア		
		オセアニア		
不動産投信	日々	中南米		
その他資産（投資信託証券 （株式、不動産投信））	その他	アフリカ	ファンド・オブ・ファンズ	なし
		中近東（中東）		
資産複合		エマージング		

（注）該当する部分を網掛け表示しています。

当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（資産複合）とが異なります。

## 該当する属性区分の定義について

その他資産 (投資信託証券(株式、 不動産投信))	投資信託証券(マザーファンド)を通じて、主として株式および不動産投信に投資する。
年12回(毎月)	目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
アジア	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
オセアニア	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファミリー ファンド	目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。
為替ヘッジなし	目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

## ファンドの特色

特色 1

日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の、金融商品取引所上場(これに準ずるものを含みます。)株式等<sup>\*1</sup>および上場不動産投資信託(リート)<sup>\*2</sup>を主要投資対象とします。

## ◆ 株式等および上場不動産投資信託(リート)を合計した組入比率は、原則として高位を保ちます。

- \*1 株式等には、預託証券(金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。)等を含みます。
- \*2 上場不動産投資信託(リート)とは、金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている不動産投資信託証券をいいます。

## 投資対象国・地域の例 (2017年6月末現在)

## アジア



## オセアニア



※上記の投資対象国・地域すべてに投資するものではありません。また、投資対象国・地域は、市況動向や投資制度の変更、金融商品取引所の新設等により、将来変更する可能性があります。

- \*3 当ファンドは、中国A株(上海証券取引所、深セン証券取引所上場の人民元建株式)も投資対象としており、中国A株に投資する場合は、中国のQFII制度にて認可された投資枠を活用しています。
- ・QFII(適格外国機関投資家)制度とは、内外の資本取引を自由化していない中国において、中国A株等の人民元建有価証券への外国からの投資を、一定の基準を満たして認可等を受けた機関投資家に認める制度のことです。(2017年6月末現在)
- ・今後、規制緩和、制度変更等に伴い、ストックコネクトなどQFII制度以外での中国A株投資を行うことがあります。ストックコネクトとは、ファンドを含む外国の投資家が、中国A株を香港の証券会社を通じて売買することができる制度です。

特色2

好配当銘柄<sup>\*1</sup>に投資し、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な  
値上がり益の獲得を目指します。

◆ 好配当銘柄の選定には、配当利回り等に着目したスクリーニングによる銘柄抽出と、ボトムアップ・アプローチ<sup>\*2</sup>を活用します。

※ポートフォリオのリスク分散上、委託会社が必要と認めた場合には、好配当銘柄以外についても組入れる場合があります。

\*1 好配当銘柄とは

日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の、金融商品取引所上場株式等および上場不動産投資信託（リート）のうち、以下の特徴を併せ持つと委託会社が判断する銘柄をいいます。

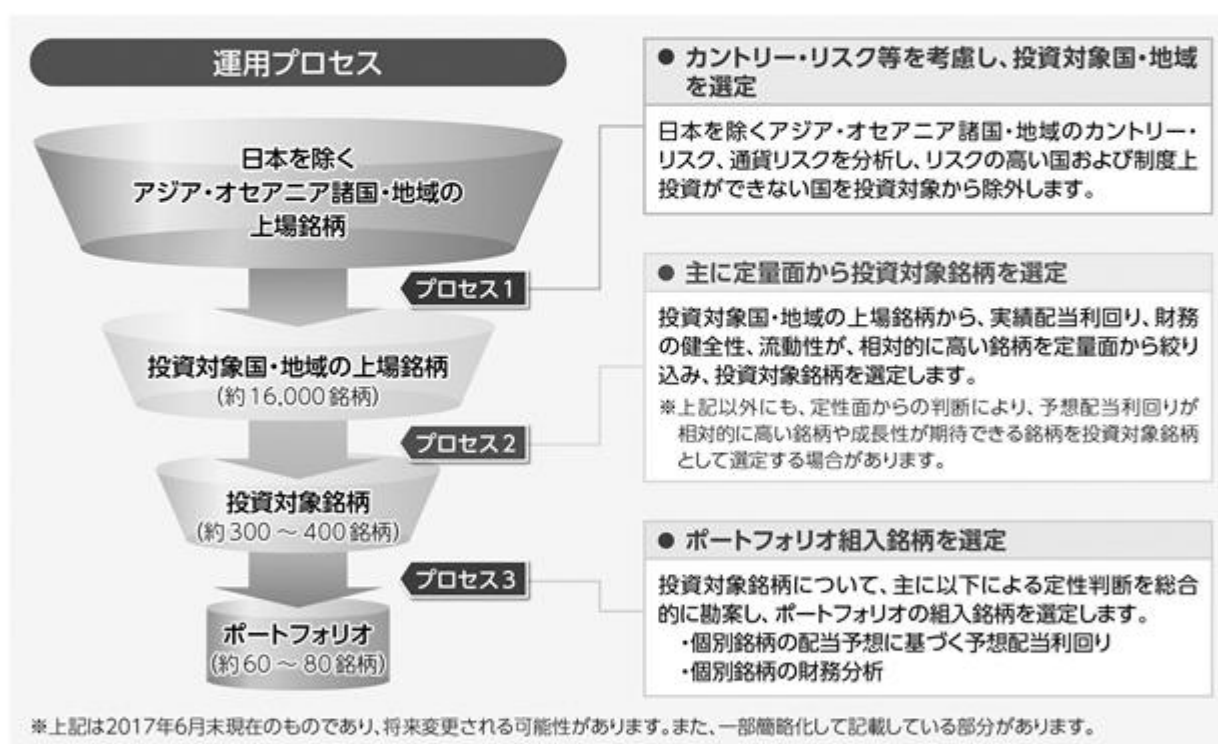
予想配当利回りが相対的に高い

+

財務の健全性が相対的に高い

\*2 ボトムアップ・アプローチとは

投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。



◆ ポートフォリオの予想配当利回りが、市場平均<sup>\*3</sup>を上回るポートフォリオの構築を目指します。

\*3 市場平均とは、MSCI オールカンントリー・アジア・パシフィック インデックス（除く日本）の予想配当利回りとします。

◆ 原則として、為替ヘッジは行いません。

◆ CIMBプリンシパル・アセット・マネジメント(S)プライベート・リミテッドからアドバイスを受けます。

CIMBプリンシパル・アセット・マネジメント(S)プライベート・リミテッドは、シンガポールに拠点を置く資産運用会社です。

投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）の発生を含む市況動向や資金動向、残存信託期間等の事情によっては、特色1、特色2のような運用ができない場合があります。

### 特色3 毎月決算を行い、収益の分配を行います。

◆ 毎月11日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。

#### 収益分配方針

- 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- 委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。  
(ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。)

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではなく、委託会社の判断により、分配を行わない場合もあります。

#### 収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託から分配金が  
支払われるイメージ



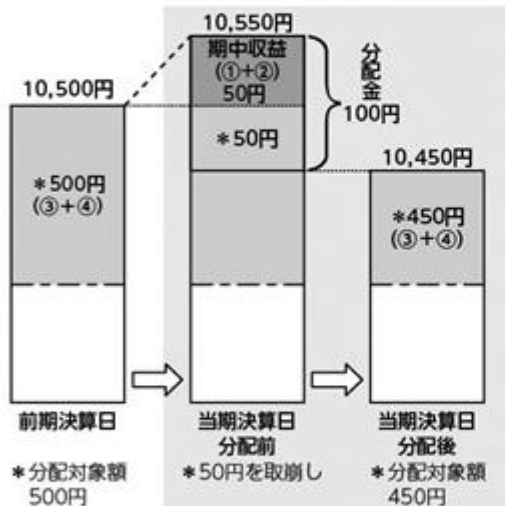
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。

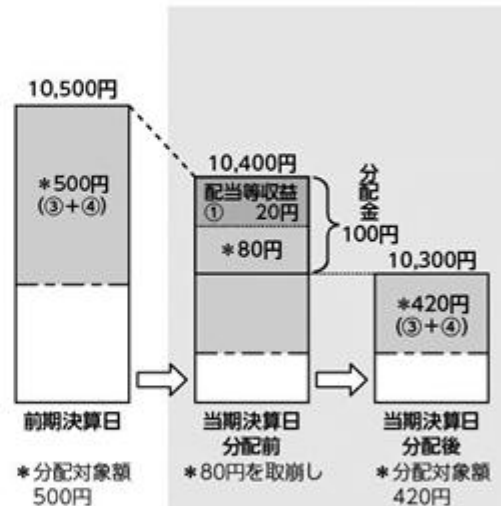
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

#### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

##### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



##### 前期決算日から基準価額が下落した場合



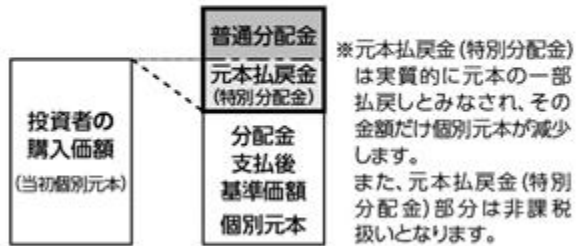
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金：当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

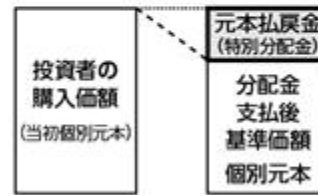
収益調整金：追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

◆投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

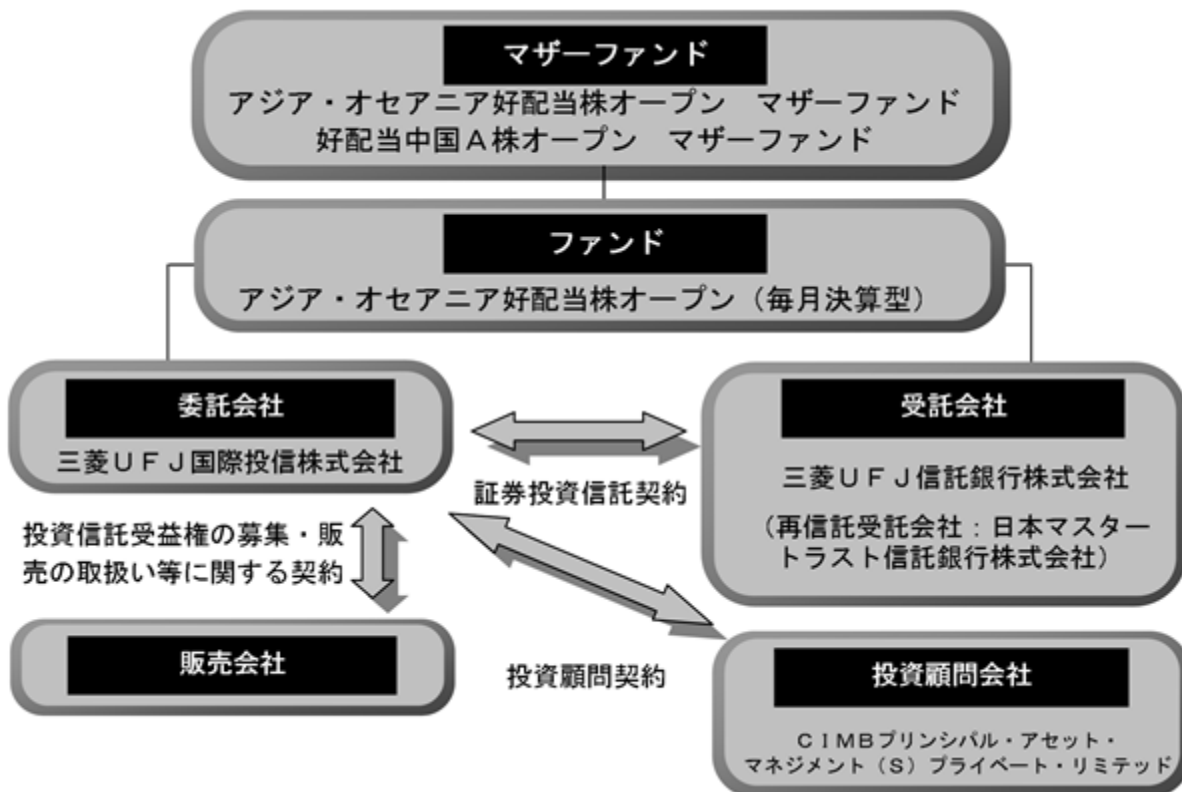
## (2) 【ファンドの沿革】

平成24年7月6日 証券投資信託契約締結、設定、運用開始

平成27年7月1日 ファンドの委託会社としての業務を国際投信投資顧問株式会社から三菱UFJ国際投信株式会社に承継

## (3) 【ファンドの仕組み】

ファンドの仕組み



委託会社およびファンドの関係法人の名称、ファンドの運営上の役割

a. 委託会社（三菱UFJ国際投信株式会社）

ファンドの運用指図、運用報告書の作成等を行います。

b. 受託会社（三菱UFJ信託銀行株式会社、再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社）

ファンドの財産の保管および管理等を行います。



- c. 投資顧問会社（C I M B プリンシパル・アセット・マネジメント（S）プライベート・リミテッド）  
マザーファンドの運用に係る助言および情報提供を行います。
- d. 販売会社  
受益権の募集の取扱い、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、一部解約金および償還金の支払いの取扱い等を行います。

委託会社が関係法人と締結している契約の概要

- a. 証券投資信託契約（委託会社と受託会社との契約）  
証券投資信託の運用の基本方針、運営方法ならびに委託会社、受託会社および受益者との権利義務関係ならびに受益権の取扱い方法等が定められています。
- b. 投資顧問契約（委託会社と投資顧問会社との契約）  
マザーファンドの運用のための情報および助言等の提供についての方法ならびに投資顧問会社が受ける投資顧問報酬等が定められています。
- c. 投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約（委託会社と販売会社との契約）  
受益権の募集・販売の取扱い、一部解約事務ならびに収益分配金、一部解約金および償還金の受益者への支払いの取扱いに関する方法等が定められています。

委託会社の概況

- a. 資本金（平成29年6月末現在）  
2,000百万円
- b. 沿革  
平成9年5月 東京三菱投信投資顧問株式会社が証券投資信託委託業務を開始  
平成16年10月 東京三菱投信投資顧問株式会社と三菱信アセットマネジメント株式会社が合併、商号を三菱投信株式会社に変更  
平成17年10月 三菱投信株式会社とユーエフジェイパートナーズ投信株式会社が合併、商号を三菱UFJ投信株式会社に変更  
平成27年7月 三菱UFJ投信株式会社と国際投信投資顧問株式会社が合併、商号を三菱UFJ国際投信株式会社に変更
- c. 大株主の状況（平成29年6月末現在）

氏名または名称	住所	所有株式数	比率
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	107,855株	50.97%
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	71,969株	34.01%
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	31,757株	15.00%

- d. 金融商品取引業者登録番号  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第404号

## 2【投資方針】

### （1）【投資方針】

#### 基本方針

ファミリーファンド方式により、信託財産の成長を目指して運用を行います。

#### 投資態度

- a. マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
- b. マザーファンド受益証券への投資を通じて、日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の、金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等<sup>\*</sup>および上場不動産投資信託（金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている不動産投資信託証券をいいます。以下同じ。）に投資し、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な値上がり益の獲得による信託財産の成長を目指します。  
<sup>\*</sup> 株式等には、預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）等を含みます。以下同じ。
- c. 株式等および上場不動産投資信託への投資は、アジア・オセアニア好配当株オープンマザーファンド受益証券および好配当中国A株オープンマザーファンド受益証券への投資を通じて行います。ただし、好配当中国A株オープンマザーファンド受益証券への投資は、中華人民共和国（香港を含みます。）の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）の人民元建株式に投資する場合があります。
- d. 株式等および上場不動産投資信託を合計した実質組入比率は、原則として高位を保ちます。
- e. 実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- f. 投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）の発生を含む市況動向や資金動向、残存信託期間等の事情によっては、前記のような運用ができない場合があります。

#### 運用の形態等

ファミリーファンド方式により運用を行います。

### （2）【投資対象】

マザーファンド受益証券（アジア・オセアニア好配当株オープンマザーファンドおよび好配当中国A株オープンマザーファンドの各受益証券をいいます。）への投資を通じて、日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の、金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等および上場不動産投資信託を主要投資対象とします。

#### 投資の対象とする資産の種類

ファンドにおいて投資の対象とする資産の種類は、次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）とします。

- a. 有価証券
- b. デリバティブ取引（金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、（5）信託約款に定める投資制限のないしおよび<sup>②</sup>に定めるものに限ります。）に係る権利
- c. 約束手形
- d. 金銭債権

## 運用の指図範囲

委託会社は、信託金を、主として、三菱UFJ国際投信株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結されたアジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンドおよび好配当中国A株オープン マザーファンドの各受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

- a．株券または新株引受権証書
- b．国債証券
- c．地方債証券
- d．特別の法律により法人の発行する債券
- e．社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
- f．特定目的会社に係る特定社債券（金融商品取引法第2条第1項第4号で定めるものをいいます。）
- g．特別の法律により設立された法人の発行する出資証券（金融商品取引法第2条第1項第6号で定めるものをいいます。）
- h．協同組織金融機関に係る優先出資証券（金融商品取引法第2条第1項第7号で定めるものをいいます。）
- i．特定目的会社に係る優先出資証券または新優先出資引受権を表示する証券（金融商品取引法第2条第1項第8号で定めるものをいいます。）
- j．コマーシャル・ペーパー
- k．新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券
- l．外国または外国の者の発行する証券または証書で、a．からk．の証券または証書の性質を有するもの
- m．投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）
- n．投資証券もしくは投資法人債券または外国投資証券（金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。）
- o．外国貸付債権信託受益証券（金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。）
- p．オプションを表示する証券または証書（金融商品取引法第2条第1項第19号で定めるものをいい、有価証券に係るものに限りません。）
- q．預託証書（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）
- r．外国法人が発行する譲渡性預金証書
- s．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限りません。）
- t．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- u．外国の者に対する権利でt．の有価証券の性質を有するもの

なお、a．の証券または証書、l．およびq．の証券または証書のうちa．の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、b．からf．までの証券、n．の証券のうち投資法人債券ならびにl．およびq．の証券または証書のうちb．からf．までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といい、m．の証券およびn．の証券（投資法人債券を除きます。）を以下「投資信託証券」といいます。

### 金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を、前記の有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

- a．預金
- b．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）
- c．コール・ローン
- d．手形割引市場において売買される手形
- e．貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの
- f．外国の者に対する権利でe．の権利の性質を有するもの

### 特別な場合の金融商品による運用

前記の規定にかかわらず、ファンドの設定、解約、償還への対応および投資環境の変動等への対応で、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、前記の

- a．からf．までに掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

### その他の投資対象

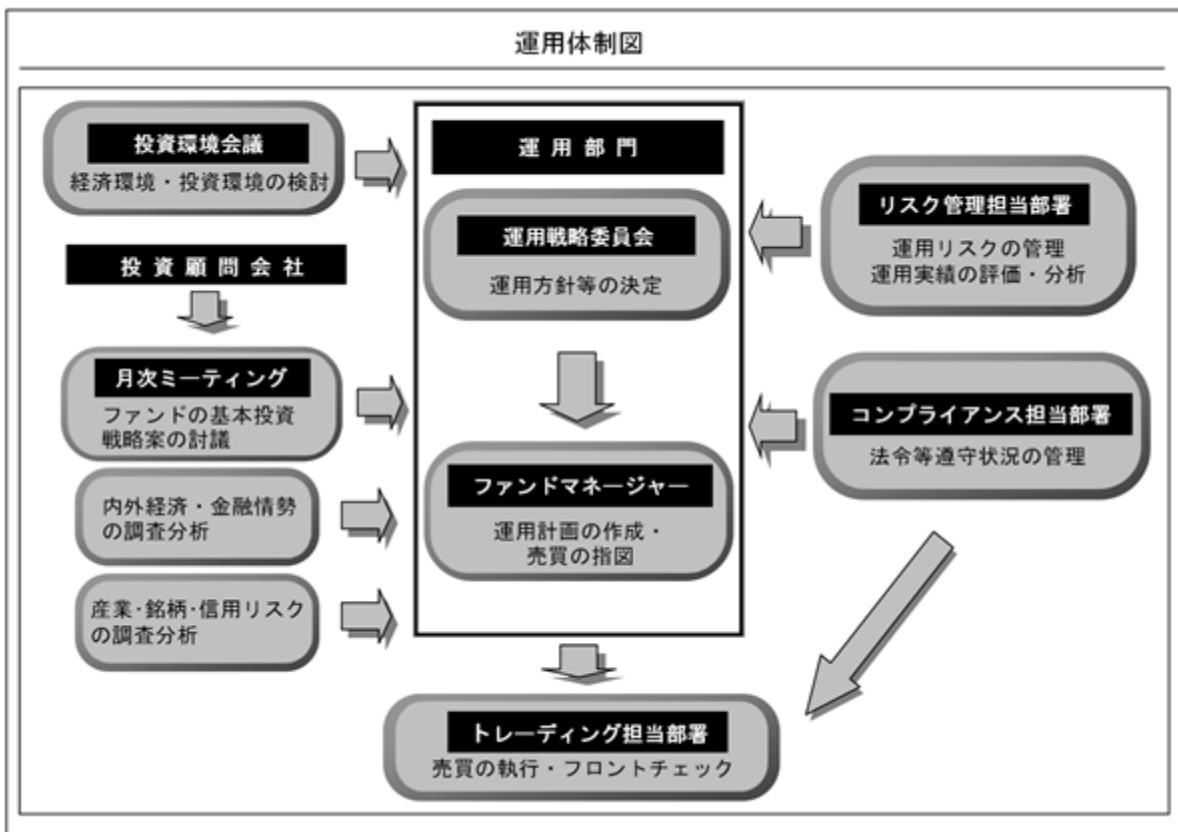
- a．先物取引等
- b．スワップ取引
- c．金利先渡取引および為替先渡取引
- d．直物為替先渡取引

## (3) 【運用体制】

ファンドの運用に関する主な会議および組織は次の通りです。（平成29年6月末現在）

会議	役割・機能
投資環境会議	投資環境会議を開催し、経済環境等の長期的な構造変化や中長期的な投資環境について検討を行います。
運用戦略委員会	運用戦略委員会を開催し、運用方針等の決定を行います。

組織	役割・機能
運用部門（ファンドマネージャー）	ファンドマネージャーは運用戦略委員会にて運用方針が承認された後、運用計画を作成します。この計画に基づいて売買の指図を行い、ポートフォリオを構築します。なお、随時投資環境、投資対象ならびに資産状況について分析および検討し、ポートフォリオの見直しを行います。



## 参考

- ・ファンドの運用は、運用部門のファンドマネージャー7名程度で行います。
- ・トレーディング担当部署においては30名程度、リスク管理およびコンプライアンスの各担当部署においては総勢40～50名程度で上記業務に当たります。

運用体制に関する社内規則等は次の通りです。

委託会社は、「組織規則」において、運用方針等を決定する機関として運用戦略委員会をおくなどの運用体制を定めています。ファンドマネージャー（運用担当者）の適正な行動基準の確立のために服務規程を定めています。

関係法人に関する管理体制は次の通りです。

委託会社は、投資顧問会社の業務執行状況等に基づき、定期的に適正性を確認します。

また、受託会社については、年1回、内部統制の整備および運用状況に関する報告書を入手し、その内容の確認を行っています。

さらに、委託会社は、三菱UFJ信託銀行からの投資環境および全資産に関する助言を活用して、質の高い運用サービスの提供に努めています。

（注）組織変更等により前記の名称、人数または内容等は変更となる場合があります。

#### （４）【分配方針】

##### 収益分配方針

毎月11日（休業日の場合は翌営業日とします。）に決算を行い、原則として以下の方針により分配を行います。ただし、第1期（平成24年8月13日）および第2期（平成24年9月11日）の決算日には原則として分配を行いません。

##### a．分配対象収益額の範囲

経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。

なお、前期から繰越された分配準備積立金および収益調整金中のその他調整金は、全額分配に使用することができます。

##### b．分配対象収益についての分配方針

委託会社が基準価額水準・市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないこともあります。）

##### c．留保益の運用方針

留保益については、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

##### 収益分配金の交付

##### a．「分配金受取コース」

収益分配金は、税金を差引いた後、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

##### b．「自動けいぞく投資コース」

収益分配金は、税金を差引いた後、「自動けいぞく投資契約<sup>\*</sup>」に基づいて、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。

<sup>\*</sup> 販売会社によっては、当該契約または規定について、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあります。

##### 収益の分配方式

##### a．信託財産から生ずる毎計算期末における利益は、次の方法により処理します。

（a）配当金、利子、貸付有価証券に係る品貸料およびこれらに類する収益から支払利息を控除した額（「配当等収益」といいます。）は、諸経費、信託報酬（当該諸経費、信託報酬は、消費税および地方消費税（以下「消費税等」といいます。）相当額を含みます。）を控除した後、その残金を受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、その一部を分配準備積立金として積立てることができます。

(b) 売買損益に評価損益を加減した利益金額(「売買益」といいます。)は、諸経費、信託報酬(当該諸経費、信託報酬は、消費税等相当額を含みます。)を控除し、繰越欠損金のあるときは、その全額を売買益をもって補てんした後、受益者に分配することができます。なお、次期以降の分配にあてるため、分配準備積立金として積立てることができます。

b. 毎計算期末において、信託財産につき生じた損失は、次期に繰越します。

## (5) 【投資制限】

### 信託約款に定める投資制限

#### マザーファンド受益証券への投資

マザーファンド受益証券への投資割合は、制限を設けません。

#### 株式への投資

株式への実質投資割合は、制限を設けません。

#### 外貨建資産への投資

外貨建資産への実質投資割合は、制限を設けません。

#### 新株引受権証券等への投資

委託会社は、信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の20を超えることとなる投資の指図をしません。なお、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

#### 上場不動産投資信託への投資

委託会社は、取得時において信託財産に属する上場不動産投資信託(金融商品取引所に上場(これに準ずるものを含みます。))されている不動産投資信託証券をいいます。以下同じ。)とマザーファンドの信託財産に属する上場不動産投資信託の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の50を超えることとなる投資の指図をしません。なお、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める上場不動産投資信託の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

#### 投資する株式、新株引受権証券および新株予約権証券の範囲

- a. 委託会社が投資することを指図する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、金融商品取引所に上場されている株式の発行会社の発行するもの、金融商品取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。
- b. 上場予定または登録予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場または登録されることが確認できるものについては、委託会社が投資することを指図することができるものとします。

#### 同一銘柄の株式等への投資制限

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式等(預託証書等を含みます。以下 において同じ。)の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該株式等の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。なお、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該有価証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

#### 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資制限

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該新株引受権証券および新株予約権証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。なお、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該有価証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

同一銘柄の上場不動産投資信託証券への投資制限

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の上場不動産投資信託証券の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該上場不動産投資信託証券の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。なお、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該上場不動産投資信託証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

信用取引の指図範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、株券の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
- b. 信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
  - (a) 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
  - (b) 株式分割により取得する株券
  - (c) 有償増資により取得する株券
  - (d) 売出しにより取得する株券
  - (e) 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権（新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの（会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。以下同じ。）の新株予約権に限ります。）の行使により取得可能な株券
  - (f) 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権（（e）に定めるものを除きます。）の行使により取得可能な株券

先物取引等の運用指図・目的・範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、および価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における有価証券先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。）、有価証券指数等先物取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。）および有価証券オプション取引（金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。）ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引は、オプション取引に含めて取扱うものとします。（以下同じ。）
  - (a) 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする有価証券（以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。）の時価総額の範囲内とします。



- (b) 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差引いた額)に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券、組入貸付債権信託受益権ならびに組入指定金銭信託の受益証券の利払金および償還金を加えた額を限度とし、かつ信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに金融商品で運用している額の範囲内とします。
- (c) コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、全オプション取引に係る支払プレミアム額の合計額が、取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- b. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、および為替変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の金融商品取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
- (a) 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、為替の売予約と合わせてヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属するヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占めるヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額の範囲内とします。
- (b) 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、為替の買予約と合わせて、外貨建有価証券の買付代金等の実需の範囲内とします。
- (c) コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払プレミアム額の合計額が、取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ全オプション取引に係る支払プレミアム額の合計額が、取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。
- c. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、および価格変動リスクを回避するため、わが国の金融商品取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の金融商品取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。
- (a) 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
- (b) 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに金融商品で運用している額(以下(b)において「金融商品運用額等」といいます。)の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建て、信託財産の外貨建資産組入可能額(約款上の組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差引いた額。以下同じ。)に信託財産が限月までに受取る外貨建組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券ならびに外貨建組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等の額より少ない場合には外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受取る外貨建組入有価証券に係る利払金および償還金等を加えた額を限度とします。

- (c) コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払プレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、かつ全オプション取引に係る支払いプレミアム額の合計額が、取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

#### スワップ取引の運用指図・目的・範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
- b. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が原則としてファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下c.において同じ。)が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、前記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。また、信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- d. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- e. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

#### 金利先渡取引および為替先渡取引の運用指図・目的・範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- b. 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則としてファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で、全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. 金利先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産に係る金利先渡取引の想定元本の合計額が、信託財産に係るヘッジ対象金利商品の時価総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、前記ヘッジ対象金利商品の時価総額の合計額が減少して、金利先渡取引の想定元本の合計額がヘッジ対象金利商品の時価総額の合計額を超えることとなった場合には、委託会社は、速やかにその超える額に相当する金利先渡取引の一部の解約を指図するものとします。

- d. 為替先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産に係る為替先渡取引の想定元本の総額と、マザーファンドの信託財産に係る為替先渡取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下d.において「為替先渡取引の想定元本の合計額」といいます。)が、信託財産に係るヘッジ対象とする外貨建資産(以下d.において「ヘッジ対象外貨建資産」といいます。)の時価総額と、マザーファンドの信託財産に係るヘッジ対象外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下d.において「ヘッジ対象外貨建資産の時価総額の合計額」といいます。)を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、ヘッジ対象外貨建資産の時価総額の合計額が減少して、為替先渡取引の想定元本の合計額が、ヘッジ対象外貨建資産の時価総額の合計額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する為替先渡取引の一部の解約を指図するものとします。
- e. d.においてマザーファンドの信託財産に係る為替先渡取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係る為替先渡取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。また、マザーファンドの信託財産に係るヘッジ対象外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係るヘッジ対象外貨建資産の時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
- f. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
- g. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

#### デリバティブ取引等に係る投資制限

委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に規定するデリバティブ取引等について、同規則に規定する合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなる取引等の指図をしません。

#### 同一銘柄の転換社債等への投資制限

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該転換社債および転換社債型新株予約権付社債の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。なお、信託財産に属するとみなした額とは、信託財産に属するマザーファンドの時価総額に、マザーファンドの信託財産の純資産総額に占める当該転換社債および転換社債型新株予約権付社債の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。

#### 有価証券の貸付の指図および範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
- (a) 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価合計額の50%を超えないものとします。
- (b) 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額の合計額の50%を超えないものとします。
- b. 限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。

- c. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとしします。

#### 公社債の空売りの指図範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、信託財産の計算においてする信託財産に属さない公社債を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付の決済については、公社債(信託財産により借入れた公社債を含みます。)の引渡しまたは買戻しにより行うことの指図をすることができるものとしします。
- b. 売付の指図は、当該売付に係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内としします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、売付に係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する売付の一部を決済するための指図をするものとしします。

#### 公社債の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行うにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行うものとしします。
- b. 当該借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内としします。
- c. 信託財産の一部解約等の事由により、b.の借入れに係る公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとしします。
- d. 借入れに係る品借料は信託財産中から支弁します。

#### 特別の場合の外貨建有価証券への投資制限

外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約される場合があります。

#### 外国為替予約取引の指図および範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、および為替変動リスクを回避するため、外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。
- b. 予約取引の指図は、信託財産に係る為替の買予約の合計額と売予約の合計額との差額につき円換算した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとしします。ただし、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額について、為替変動リスクを回避するためにする当該予約取引の指図については、この限りではありません。
- c. 限度額を超えることとなった場合には、委託会社は所定の期間内にその超える額に相当する為替予約の一部を解消するための外国為替の売買の予約取引の指図をするものとしします。

**321** 直物為替先渡取引の運用指図・目的・範囲

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、直物為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
- b. 直物為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が、原則として信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
- c. 直物為替先渡取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額等で評価するものとします。
- d. 委託会社は、直物為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

**322** 資金の借入れ

- a. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用および運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金の借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
- b. 一部解約に伴う支払資金の手当てに係る借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c. 収益分配金の再投資に係る借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日から翌営業日までの間とし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- d. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

**23.** 信用リスクの分散規制

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に係る株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則にしたがい当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

## 法令等による投資制限

同一の法人の発行する株式（投資信託及び投資法人に関する法律第9条）

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、その運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき、投資信託財産として有する当該株式に係る議決権（株主総会において決議をすることができる事項の全部につき議決権を行使することができない株式についての議決権を除き、会社法第879条第3項の規定により議決権を有するものとみなされる株式についての議決権を含みます。）の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図してはならないものとされています。

デリバティブ取引（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号）

委託会社は、信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図してはならないものとされています。

信用リスク集中回避（金融商品取引業等に関する内閣府令第130条第1項第8号の2）

委託会社は、信託財産に関し、信用リスク（保有する有価証券その他の資産について取引の相手方の債務不履行その他の理由により発生し得る危険をいいます。）を適正に管理する方法としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法に反することとなる取引を行うことを受託会社に指図してはならないものとされています。

参考 マザーファンド約款の「運用の基本方針」を以下に記載いたします。

## アジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンド 運用の基本方針

約款第15条の規定に基づき、委託者の定める運用の基本方針は、次の通りとします。

### 1. 基本方針

この投資信託は、信託財産の成長を目指して運用を行います。

### 2. 運用方法

#### (1) 投資対象

日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の、金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等<sup>\*</sup>および上場不動産投資信託（金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）されている不動産投資信託証券をいいます。以下、この運用の基本方針において同じ。）を主要投資対象とします。

<sup>\*</sup> 株式等には、預託証券（金融商品取引法第2条第1項第20号で定めるものをいいます。）等を含みます。（以下、この運用の基本方針において同じ。）

#### (2) 投資態度

日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の、金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）株式等および上場不動産投資信託を主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な値上がり益の獲得による信託財産の成長を目指します。

株式等および上場不動産投資信託を合計した組入比率は、原則として高位を保ちます。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）の発生を含む市況動向や資金動向、残存信託期間等の事情によっては、前記のような運用ができない場合があります。

### 3. 投資制限

(1) 株式への投資割合は、制限を設けません。

(2) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の20%以内とします。

(3) 上場不動産投資信託への投資割合は、取得時において、信託財産の純資産総額の50%以内とします。

(4) 同一銘柄の株式等への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

(5) 同一銘柄の新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

(6) 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

(7) 同一銘柄の上場不動産投資信託への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。

(8) 有価証券先物取引等は、約款第19条の範囲で行います。

(9) スワップ取引は、約款第20条の範囲で行います。

(10) 直物為替先渡取引は、約款第29条の範囲で行います。

(11) 外貨建資産への投資割合は、制限を設けません。

(12) 一般社団法人投資信託協会規則に規定するデリバティブ取引等について、同規則に規定する合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

好配当中国A株オープン マザーファンド  
運用の基本方針

約款第15条の規定に基づき、委託者の定める運用の基本方針は、次の通りとします。

## 1. 基本方針

この投資信託は、信託財産の成長を目指して運用を行います。

## 2. 運用方法

## (1) 投資対象

中華人民共和国（香港を含みます。以下「中国」といいます。）の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）の人民元建株式を主要投資対象とします。

## (2) 投資態度

中国の金融商品取引所上場（これに準ずるものを含みます。）の人民元建株式を主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な値上がり益の獲得による信託財産の成長を目指します。

株式の組入比率は、原則として高位を保ちます。

外貨建資産については原則として為替ヘッジを行いません。

投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）の発生を含む市況動向や資金動向、残存信託期間等の事情によっては、前記のような運用ができない場合があります。

## 3. 投資制限

(1) 株式への投資は、制限を設けません。

(2) 新株引受権証券および新株予約権証券への投資は、取得時において、信託財産の純資産総額の20%以内とします。

(3) 有価証券先物取引等は、約款第18条の範囲で行います。

(4) スワップ取引は、約款第19条の範囲で行います。

(5) 直物為替先渡取引は、約款第26条の範囲で行います。

(6) 外貨建資産への投資は、制限を設けません。

(7) 一般社団法人投資信託協会規則に規定するデリバティブ取引等について、同規則に規定する合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。

以上



### 3【投資リスク】

#### (1) ファンドおよびマザーファンドのリスク

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドおよびマザーファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

（主なリスクであり、以下に限定されるものではありません。）

##### 価格変動リスク

株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すればファンドの基準価額の変動要因となります。

リートの価格は、当該リートが組入れている不動産等の価値や賃料等に加え、様々な市場環境等の影響を受けます。リートの価格が変動すればファンドの基準価額の変動要因となります。

##### 為替変動リスク

ファンドは、主に日本を除くアジア・オセアニア諸国・地域の通貨建等の有価証券に投資します（ただし、これらに限定されるものではありません。）。

外貨建資産に投資を行いますので、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く（円安に）なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く（円高に）なればファンドの基準価額の下落要因となります。

##### 信用リスク

投資している有価証券等の発行会社の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。

##### 流動性リスク

有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいはファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合にはファンドの基準価額の下落要因となります。

一般的に新興国の株式やリートは、市場規模や取引量が小さく、投資環境によっては機動的な売買が行えないことがあります。

##### カントリー・リスク

株式等およびリートの発行国・地域の政治や経済、社会情勢等の変化（カントリー・リスク）により金融・証券市場が混乱して、株価が大きく変動する可能性があります。

新興国のカントリー・リスクとしては主に以下の点が挙げられます。

- a．先進国と比較して経済が一般的に脆弱であると考えられ、経済成長率やインフレ率等の経済状況が著しく変化する可能性があります。
- b．政治不安や社会不安、他国との外交関係の悪化により海外からの投資に対する規制導入等の可能性があります。
- c．海外との資金移動に関する規制導入等の可能性があります。

d．先進国とは情報開示に係る制度や慣習等が異なる場合があります。

この結果、新興国の株式等およびリートへの投資が著しく悪影響を受ける可能性があります。

#### 中国における税制リスク

2014年11月17日以降、Q F I I 制度の投資枠内で生じた期間収益（キャピタルゲイン）に対しては、一時的に非課税措置がとられております。課税が再開された場合もしくは課税対象の場合、ファンドがこれを実質的に負担することとなります。また、Q F I I に対する中国国内の課税の取扱いについては、今後変更となる可能性があります。

#### ファミリーファンド方式による基準価額変動リスク

同じマザーファンドに投資する他のファンドの資金動向による影響を受け、ファンドの基準価額が変動することがあります。

#### カウンターパーティー・リスク（取引相手先の決済不履行リスク）

証券取引、為替取引等の相対取引においては、取引相手先の決済不履行リスクが伴います。

#### その他の主な留意点

a．中国A株に投資する場合は、中国のQ F I I 制度を利用して行っています。（2017年6月末現在）

この場合、「中国における税制リスク」の他、以下の点にもご留意ください。

- ・ Q F I I 制度に基づいて、一定の適格要件を満たし、中国の証券市場に投資することについて、中国証券監督管理委員会（C S R C）の認定を受け、かつ国家外貨管理局（S A F E）から投資枠の認可を受けたQ F I I は、中国A株への投資が可能です。なお、ファンドは、好配当中国A株オープン マザーファンドを通じて、三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社がQ F I I として認可された投資枠および投資配分比率の範囲内で、中国A株に実質的に投資を行っています。したがって、同マザーファンドにおいて、委託会社が中国A株の売買を受託会社に指図する場合、その発注先は三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社1社になり、同社が現地証券会社に取次ぐ形をとります。中国A株の売買に伴う費用は、現地証券会社の手数料、その他の諸費用等に三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社の取次手数料を加えたものになります。（2017年6月末現在）

b．受益権の総口数が当初設定に係る10分の1または10億口を下ることとなった場合等には、信託期間中であっても償還されることがあります。

c．法令、税制および会計制度等は、今後変更される可能性があります。

d．信託財産の資金管理を円滑に行うため、原則として1日1件5億円を超える換金が行えないものとします。また、市況動向等により、これ以外にも大口の換金請求に制限を設ける場合があります。

## (2) 投資リスクに対する管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。この内容は運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

具体的な、投資リスクに対するリスク管理体制は以下の通りです。

## トレーディング担当部署

株式、公社債等の売買執行および発注に伴うフロントチェックを行います。

## コンプライアンス担当部署

法令上の禁止行為、約款の投資制限等のモニタリングを通じ、法令等遵守状況を把握・管理し、必要に応じて改善の指導を行います。

## リスク管理担当部署

運用リスク全般の状況をモニタリング・管理するとともに、運用実績の分析および評価を行い、必要に応じて改善策等を提言します。また、事務・情報資産・その他のリスクの統括的管理を行っています。

## 内部監査担当部署

委託会社のすべての業務から独立した立場より、リスク管理体制の適切性および有効性について評価を行い、改善策の提案等を通して、リスク管理機能の維持・向上をはかります。

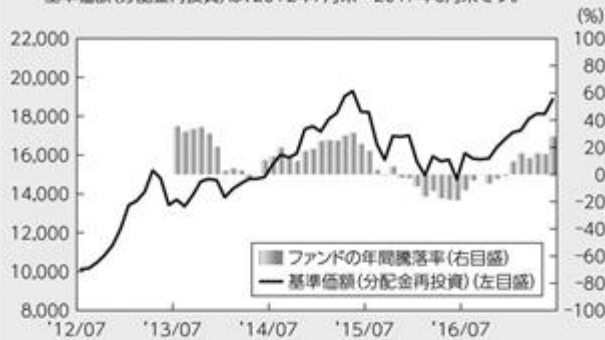
\* 組織変更等により、前記の名称および内容は変更となる場合があります。

## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

### ● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

ファンドの年間騰落率は、2013年7月～2017年6月です。  
基準価額(分配金再投資)は、2012年7月末～2017年6月末です。



### ● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2012年7月末～2017年6月末)  
ファンドの年間騰落率は、2013年7月～2017年6月です。



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。

## 代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	TOPIX(配当込み)	TOPIX(配当込み)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX(配当込み)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の停止またはTOPIX(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPIとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(国債)はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI(国債)は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。
先進国債	シティ世界国債インデックス(除く日本)	シティ世界国債インデックス(除く日本)は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

## 4【手数料等及び税金】

## (1)【申込手数料】

支払先	申込手数料	対価として提供する役務の内容
販売会社	取得申込みの受付日の翌営業日の基準価額に対して、上限3.24%（税込）（上限3.00%（税抜）） （販売会社が定めます）	ファンドおよび投資環境の説明・情報提供、購入に関する事務手続等

上記は、販売会社により異なります。くわしくは販売会社にお問い合わせください。

「自動けいぞく投資コース」に係る収益分配金の再投資による取得申込みについては、無手数料とします。

## (2)【換金（解約）手数料】

かかりません。

ただし、信託財産留保額として、解約の受付日の翌営業日の基準価額の0.2%が差引かれます。

## (3)【信託報酬等】

- a. 信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に、年1.674%（税抜1.550%）の率を乗じて得た額とします。信託報酬は消費税等相当額を含みます。

1万口当たりの信託報酬： 保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数 / 365)
---

上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。

- b. 信託報酬は、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。信託報酬の平成29年6月末現在の各支払先への配分（税抜）は、以下の通りです。

支払先	配分（税抜）	対価として提供する役務の内容
委託会社	0.800%	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等
販売会社	0.700%	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等
受託会社	0.050%	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等

上記信託報酬には、別途消費税等相当額がかかります。

なお、委託会社の信託報酬には、投資顧問会社への投資顧問報酬が含まれます。

## (4)【その他の手数料等】

## 信託事務の諸費用

- a. 信託財産に関する租税、監査費用（消費税等相当額を含みます。）等の信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。
- b. 信託財産に係る監査費用（消費税等相当額を含みます。）は、ファンドの計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に一定率を乗じて得た額とし、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁します。

## 売買・保管等に要する費用

信託財産の組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等（消費税等相当額を含みます。）、先物取引・オプション取引等に要する費用および外貨建資産の保管等に要する費用についても信託財産が負担するものとします。

## 資金の借入れ

一部解約金の支払資金等に不足額が生じて資金借入れの指図をする場合は、借入金の利息は信託財産中より支弁します。

## その他

マザーファンドに係る売買・保管等に要する費用につきましても、マザーファンドにおける信託財産が負担するものとします。

- \* 売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

また、実質的な投資対象である不動産投資信託証券には運用等にかかる費用が発生しますが、投資する不動産投資信託証券は固定されていない等により、あらかじめ金額および上限等を記載することはできません。

(注) 手数料等については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

## (5) 【課税上の取扱い】

ファンドの課税上の取扱いは、株式投資信託となります。

- \* 以下の内容は、平成29年6月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。
- \* 買取制度につきましては、販売会社に確認してください。
- \* 税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認されることをお勧めします。

## 個人の受益者に対する課税

期間	対象	課税対象	所得の種類	税率等
平成26年 1月1日から 平成49年 12月31日まで	収益分配金	普通分配金	配当所得	源泉徴収(申告不要) 20.315% <sup>*1</sup> (所得税15.315% <sup>*1</sup> 地方税5.000%)
	一部解約金	譲渡益	譲渡所得	申告分離課税 <sup>*2</sup> 20.315% <sup>*1</sup> (所得税15.315% <sup>*1</sup> 地方税5.000%)
	償還金			

\*1 所得税の税率には、復興特別所得税が含まれています。

\*2 原則として確定申告が必要ですが、特定口座(源泉徴収あり)をご利用の場合は、源泉徴収され、申告不要制度が適用されます。

- 1 収益分配金に対する課税は、確定申告を行うことにより総合課税または申告分離課税のいずれかを選択することもできます。
- 2 配当控除の適用はありません。
- 3 公募株式投資信託は税法上、「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」の適用対象です。NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。

## 法人の受益者に対する課税

	所得税法上の対象額	税率等
収益分配金	普通分配金額	平成26年1月1日から平成49年12月31日までは 源泉徴収15.315% <sup>*</sup> （所得税）
一部解約金	解約価額の個別元本超過額	
償還金	償還価額の個別元本超過額	

- \* 所得税の税率には、復興特別所得税が含まれています。  
税額控除制度が適用されます。なお、法人税の益金不算入制度は適用されません。  
その他くわしくは販売会社にお問い合わせください。

## 個別元本について

- a. 受益者毎の信託時の受益権の価額等（申込手数料（消費税等相当額を含みます。）は含まれていません。）が当該受益者の元本（個別元本）にあたります。
- b. 受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- c. 受益者が同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合については、販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該支店等毎に個別元本の算出が行われる場合があります。
- d. 受益者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

## 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受取る際は、

- a. 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となります。
- b. 当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

## 5【運用状況】

## (1)【投資状況】

平成29年6月30日現在  
(単位：円)

資産の種類	国/地域名	時価合計	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	1,891,548,478	99.01
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		18,994,999	0.99
純資産総額		1,910,543,477	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## a 評価額上位30銘柄

平成29年6月30日現在

国/地域	銘柄	種類	業種	口数	上段：帳簿価額 下段：評価額		利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)		
日本	アジア・オセアニア好配当株 オープン マザーファンド	親投資信託受 益証券		882,812,775	1.9249	1,699,326,311		91.99
					1.9908	1,757,503,672		
日本	好配当中国A株オープンマ ザーファンド	親投資信託受 益証券		39,620,716	3.2486	128,711,857		7.02
					3.3832	134,044,806		

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

## b 全銘柄の種類/業種別投資比率

平成29年6月30日現在

種類/業種別	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.01
合計	99.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

## 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。



## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

下記計算期間末日および平成29年6月末日、同日前1年以内における各月末の純資産の推移は次の通りです。

(単位：円)

	純資産総額	基準価額 (1万口当たりの純資産価額)
第1計算期間末日 (平成24年 8月13日)	8,670,768,225 (分配付) 8,670,768,225 (分配落)	10,232 (分配付) 10,232 (分配落)
第2計算期間末日 (平成24年 9月11日)	8,554,092,323 (分配付) 8,554,092,323 (分配落)	10,208 (分配付) 10,208 (分配落)
第3計算期間末日 (平成24年10月11日)	8,365,324,897 (分配付) 8,341,490,932 (分配落)	10,530 (分配付) 10,500 (分配落)
第4計算期間末日 (平成24年11月12日)	6,957,818,625 (分配付) 6,925,649,720 (分配落)	10,815 (分配付) 10,765 (分配落)
第5計算期間末日 (平成24年12月11日)	6,972,336,257 (分配付) 6,942,000,427 (分配落)	11,492 (分配付) 11,442 (分配落)
第6計算期間末日 (平成25年 1月11日)	8,474,829,403 (分配付) 8,428,117,273 (分配落)	12,700 (分配付) 12,630 (分配落)
第7計算期間末日 (平成25年 2月12日)	6,588,361,138 (分配付) 6,539,824,025 (分配落)	13,574 (分配付) 13,474 (分配落)
第8計算期間末日 (平成25年 3月11日)	6,206,661,249 (分配付) 6,162,532,176 (分配落)	14,065 (分配付) 13,965 (分配落)
第9計算期間末日 (平成25年 4月11日)	12,301,505,555 (分配付) 12,216,811,685 (分配落)	14,525 (分配付) 14,425 (分配落)
第10計算期間末日 (平成25年 5月13日)	18,292,352,140 (分配付) 18,112,325,895 (分配落)	15,241 (分配付) 15,091 (分配落)
第11計算期間末日 (平成25年 6月11日)	15,104,116,642 (分配付) 14,932,034,072 (分配落)	13,166 (分配付) 13,016 (分配落)
第12計算期間末日 (平成25年 7月11日)	12,888,319,662 (分配付) 12,739,134,796 (分配落)	12,959 (分配付) 12,809 (分配落)
第13計算期間末日 (平成25年 8月12日)	11,094,439,866 (分配付) 10,961,773,362 (分配落)	12,544 (分配付) 12,394 (分配落)
第14計算期間末日 (平成25年 9月11日)	9,415,310,503 (分配付) 9,307,751,357 (分配落)	13,130 (分配付) 12,980 (分配落)
第15計算期間末日 (平成25年10月11日)	7,535,608,716 (分配付) 7,447,833,894 (分配落)	12,878 (分配付) 12,728 (分配落)
第16計算期間末日 (平成25年11月11日)	6,244,002,121 (分配付) 6,171,733,056 (分配落)	12,960 (分配付) 12,810 (分配落)
第17計算期間末日 (平成25年12月11日)	5,061,837,337 (分配付) 5,003,476,678 (分配落)	13,010 (分配付) 12,860 (分配落)
第18計算期間末日 (平成26年 1月14日)	4,296,546,521 (分配付) 4,245,392,615 (分配落)	12,599 (分配付) 12,449 (分配落)
第19計算期間末日 (平成26年 2月12日)	3,878,134,196 (分配付) 3,830,571,268 (分配落)	12,231 (分配付) 12,081 (分配落)
第20計算期間末日 (平成26年 3月11日)	3,599,485,206 (分配付) 3,555,932,662 (分配落)	12,397 (分配付) 12,247 (分配落)
第21計算期間末日 (平成26年 4月11日)	3,254,360,323 (分配付) 3,215,537,022 (分配落)	12,574 (分配付) 12,424 (分配落)
第22計算期間末日 (平成26年 5月12日)	3,099,683,191 (分配付) 3,061,659,302 (分配落)	12,228 (分配付) 12,078 (分配落)
第23計算期間末日 (平成26年 6月11日)	2,893,283,255 (分配付) 2,858,218,529 (分配落)	12,377 (分配付) 12,227 (分配落)
第24計算期間末日 (平成26年 7月11日)	2,778,424,635 (分配付) 2,744,573,759 (分配落)	12,312 (分配付) 12,162 (分配落)
第25計算期間末日 (平成26年 8月11日)	2,695,464,222 (分配付) 2,662,390,322 (分配落)	12,225 (分配付) 12,075 (分配落)

第26計算期間末日 (平成26年 9月11日)	2,474,558,525 (分配付) 2,446,026,078 (分配落)	13,009 (分配付) 12,859 (分配落)
第27計算期間末日 (平成26年10月14日)	2,749,281,639 (分配付) 2,714,984,220 (分配落)	12,024 (分配付) 11,874 (分配落)
第28計算期間末日 (平成26年11月11日)	2,994,019,632 (分配付) 2,959,740,669 (分配落)	13,101 (分配付) 12,951 (分配落)
第29計算期間末日 (平成26年12月11日)	3,507,128,766 (分配付) 3,467,062,282 (分配落)	13,130 (分配付) 12,980 (分配落)
第30計算期間末日 (平成27年 1月13日)	3,837,284,805 (分配付) 3,792,803,300 (分配落)	12,940 (分配付) 12,790 (分配落)
第31計算期間末日 (平成27年 2月12日)	4,094,286,555 (分配付) 4,047,580,678 (分配落)	13,149 (分配付) 12,999 (分配落)
第32計算期間末日 (平成27年 3月11日)	4,227,330,581 (分配付) 4,179,135,281 (分配落)	13,157 (分配付) 13,007 (分配落)
第33計算期間末日 (平成27年 4月13日)	5,222,724,449 (分配付) 5,165,536,935 (分配落)	13,699 (分配付) 13,549 (分配落)
第34計算期間末日 (平成27年 5月11日)	5,721,181,990 (分配付) 5,657,620,985 (分配落)	13,502 (分配付) 13,352 (分配落)
第35計算期間末日 (平成27年 6月11日)	5,107,279,091 (分配付) 5,050,917,005 (分配落)	13,592 (分配付) 13,442 (分配落)
第36計算期間末日 (平成27年 7月13日)	4,440,576,696 (分配付) 4,388,505,729 (分配落)	12,792 (分配付) 12,642 (分配落)
第37計算期間末日 (平成27年 8月11日)	4,178,256,457 (分配付) 4,129,851,597 (分配落)	12,948 (分配付) 12,798 (分配落)
第38計算期間末日 (平成27年 9月11日)	3,483,410,484 (分配付) 3,437,131,742 (分配落)	11,291 (分配付) 11,141 (分配落)
第39計算期間末日 (平成27年10月13日)	3,441,409,370 (分配付) 3,396,601,407 (分配落)	11,521 (分配付) 11,371 (分配落)
第40計算期間末日 (平成27年11月11日)	3,329,430,656 (分配付) 3,285,564,521 (分配落)	11,385 (分配付) 11,235 (分配落)
第41計算期間末日 (平成27年12月11日)	3,107,299,174 (分配付) 3,065,526,787 (分配落)	11,158 (分配付) 11,008 (分配落)
第42計算期間末日 (平成28年 1月12日)	2,656,167,577 (分配付) 2,616,792,368 (分配落)	10,119 (分配付) 9,969 (分配落)
第43計算期間末日 (平成28年 2月12日)	2,458,731,050 (分配付) 2,432,591,071 (分配落)	9,406 (分配付) 9,306 (分配落)
第44計算期間末日 (平成28年 3月11日)	2,505,656,857 (分配付) 2,480,695,436 (分配落)	10,038 (分配付) 9,938 (分配落)
第45計算期間末日 (平成28年 4月11日)	2,366,795,208 (分配付) 2,342,122,640 (分配落)	9,593 (分配付) 9,493 (分配落)
第46計算期間末日 (平成28年 5月11日)	2,385,237,504 (分配付) 2,360,746,945 (分配落)	9,739 (分配付) 9,639 (分配落)
第47計算期間末日 (平成28年 6月13日)	2,262,526,332 (分配付) 2,238,752,526 (分配落)	9,517 (分配付) 9,417 (分配落)
第48計算期間末日 (平成28年 7月11日)	2,144,337,713 (分配付) 2,120,815,628 (分配落)	9,116 (分配付) 9,016 (分配落)
第49計算期間末日 (平成28年 8月12日)	2,237,182,706 (分配付) 2,213,943,797 (分配落)	9,627 (分配付) 9,527 (分配落)
第50計算期間末日 (平成28年 9月12日)	2,164,566,842 (分配付) 2,141,792,401 (分配落)	9,504 (分配付) 9,404 (分配落)
第51計算期間末日 (平成28年10月11日)	2,153,502,859 (分配付) 2,131,031,392 (分配落)	9,583 (分配付) 9,483 (分配落)
第52計算期間末日 (平成28年11月11日)	2,075,769,844 (分配付) 2,053,679,118 (分配落)	9,397 (分配付) 9,297 (分配落)
第53計算期間末日 (平成28年12月12日)	2,166,684,965 (分配付) 2,151,402,030 (分配落)	9,924 (分配付) 9,854 (分配落)
第54計算期間末日 (平成29年 1月11日)	2,140,087,498 (分配付) 2,125,007,327 (分配落)	9,934 (分配付) 9,864 (分配落)

第55計算期間末日 (平成29年 2月13日)	2,046,747,245 (分配付) 2,032,417,234 (分配落)	9,998 (分配付) 9,928 (分配落)
第56計算期間末日 (平成29年 3月13日)	1,890,275,748 (分配付) 1,877,083,186 (分配落)	10,030 (分配付) 9,960 (分配落)
第57計算期間末日 (平成29年 4月11日)	1,889,017,872 (分配付) 1,875,870,058 (分配落)	10,057 (分配付) 9,987 (分配落)
第58計算期間末日 (平成29年 5月11日)	1,929,302,816 (分配付) 1,916,376,094 (分配落)	10,447 (分配付) 10,377 (分配落)
第59計算期間末日 (平成29年 6月12日)	1,855,233,193 (分配付) 1,842,508,366 (分配落)	10,206 (分配付) 10,136 (分配落)
平成28年 6月末日	2,141,502,145	9,064
7月末日	2,272,947,898	9,783
8月末日	2,200,095,244	9,514
9月末日	2,111,379,520	9,392
10月末日	2,069,731,804	9,320
11月末日	2,092,173,522	9,556
12月末日	2,112,301,167	9,731
平成29年 1月末日	2,095,252,551	9,864
2月末日	1,996,687,476	9,853
3月末日	1,907,365,428	10,126
4月末日	1,884,138,264	10,201
5月末日	1,844,141,065	10,126
6月末日	1,910,543,477	10,475

## 【分配の推移】

	1万口当たりの分配金
第1計算期間	
第2計算期間	
第3計算期間	30円
第4計算期間	50円
第5計算期間	50円
第6計算期間	70円
第7計算期間	100円
第8計算期間	100円
第9計算期間	100円
第10計算期間	150円
第11計算期間	150円
第12計算期間	150円
第13計算期間	150円
第14計算期間	150円
第15計算期間	150円
第16計算期間	150円
第17計算期間	150円
第18計算期間	150円
第19計算期間	150円
第20計算期間	150円
第21計算期間	150円
第22計算期間	150円
第23計算期間	150円
第24計算期間	150円
第25計算期間	150円
第26計算期間	150円
第27計算期間	150円
第28計算期間	150円
第29計算期間	150円
第30計算期間	150円
第31計算期間	150円

第32計算期間	150円
第33計算期間	150円
第34計算期間	150円
第35計算期間	150円
第36計算期間	150円
第37計算期間	150円
第38計算期間	150円
第39計算期間	150円
第40計算期間	150円
第41計算期間	150円
第42計算期間	150円
第43計算期間	100円
第44計算期間	100円
第45計算期間	100円
第46計算期間	100円
第47計算期間	100円
第48計算期間	100円
第49計算期間	100円
第50計算期間	100円
第51計算期間	100円
第52計算期間	100円
第53計算期間	70円
第54計算期間	70円
第55計算期間	70円
第56計算期間	70円
第57計算期間	70円
第58計算期間	70円
第59計算期間	70円

## 【収益率の推移】

	収益率(%)
第1計算期間	2.32
第2計算期間	0.23
第3計算期間	3.15
第4計算期間	3.00
第5計算期間	6.75
第6計算期間	10.99
第7計算期間	7.47
第8計算期間	4.38
第9計算期間	4.01
第10計算期間	5.65
第11計算期間	12.75
第12計算期間	0.43
第13計算期間	2.06
第14計算期間	5.93
第15計算期間	0.78
第16計算期間	1.82
第17計算期間	1.56
第18計算期間	2.02
第19計算期間	1.75
第20計算期間	2.61
第21計算期間	2.67
第22計算期間	1.57
第23計算期間	2.47
第24計算期間	0.69
第25計算期間	0.51
第26計算期間	7.73
第27計算期間	6.49

第28計算期間	10.33
第29計算期間	1.38
第30計算期間	0.30
第31計算期間	2.80
第32計算期間	1.21
第33計算期間	5.32
第34計算期間	0.34
第35計算期間	1.79
第36計算期間	4.83
第37計算期間	2.42
第38計算期間	11.77
第39計算期間	3.41
第40計算期間	0.12
第41計算期間	0.68
第42計算期間	8.07
第43計算期間	5.64
第44計算期間	7.86
第45計算期間	3.47
第46計算期間	2.59
第47計算期間	1.26
第48計算期間	3.19
第49計算期間	6.77
第50計算期間	0.24
第51計算期間	1.90
第52計算期間	0.90
第53計算期間	6.74
第54計算期間	0.81
第55計算期間	1.35
第56計算期間	1.02
第57計算期間	0.97
第58計算期間	4.60
第59計算期間	1.64

（注）「収益率」とは、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額）を控除した額を当該基準価額（分配落の額）で除して得た数に100を乗じて得た数をいう。

#### （４）【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数	発行済口数
第1計算期間	8,503,448,530	29,049,930	8,474,398,600
第2計算期間	94,834,445	189,379,422	8,379,853,623
第3計算期間	93,086,149	528,284,687	7,944,655,085
第4計算期間	87,989,778	1,598,863,708	6,433,781,155
第5計算期間	834,444,248	1,201,059,335	6,067,166,068
第6計算期間	2,257,942,523	1,651,947,108	6,673,161,483
第7計算期間	526,710,131	2,346,160,298	4,853,711,316
第8計算期間	762,618,224	1,203,422,209	4,412,907,331
第9計算期間	4,660,881,892	604,402,133	8,469,387,090
第10計算期間	4,614,107,804	1,081,745,216	12,001,749,678
第11計算期間	1,483,701,091	2,013,279,409	11,472,171,360
第12計算期間	126,555,813	1,653,069,429	9,945,657,744
第13計算期間	64,442,558	1,165,666,681	8,844,433,621
第14計算期間	19,582,159	1,693,406,008	7,170,609,772
第15計算期間	92,986,923	1,411,941,842	5,851,654,853
第16計算期間	157,794,772	1,191,511,951	4,817,937,674
第17計算期間	37,947,729	965,174,757	3,890,710,646
第18計算期間	24,682,989	505,133,179	3,410,260,456
第19計算期間	33,206,778	272,605,352	3,170,861,882
第20計算期間	25,933,024	293,291,964	2,903,502,942

第21計算期間	24,422,661	339,705,489	2,588,220,114
第22計算期間	123,741,013	177,035,131	2,534,925,996
第23計算期間	35,021,116	232,298,699	2,337,648,413
第24計算期間	46,718,364	127,641,699	2,256,725,078
第25計算期間	155,108,130	206,906,500	2,204,926,708
第26計算期間	221,276,493	524,040,015	1,902,163,186
第27計算期間	509,608,833	125,277,405	2,286,494,614
第28計算期間	143,712,247	144,942,600	2,285,264,261
第29計算期間	604,611,475	218,776,777	2,671,098,959
第30計算期間	390,989,361	96,654,596	2,965,433,724
第31計算期間	267,065,460	118,774,030	3,113,725,154
第32計算期間	254,178,413	154,883,555	3,213,020,012
第33計算期間	733,431,094	133,950,152	3,812,500,954
第34計算期間	675,900,919	251,001,495	4,237,400,378
第35計算期間	10,063,746	489,991,690	3,757,472,434
第36計算期間	8,374,068	294,448,675	3,471,397,827
第37計算期間	9,234,586	253,641,689	3,226,990,724
第38計算期間	8,783,438	150,524,688	3,085,249,474
第39計算期間	27,295,039	125,346,979	2,987,197,534
第40計算期間	21,698,512	84,487,032	2,924,409,014
第41計算期間	77,015,052	216,598,224	2,784,825,842
第42計算期間	32,194,309	192,006,196	2,625,013,955
第43計算期間	25,080,913	36,096,908	2,613,997,960
第44計算期間	8,998,883	126,854,682	2,496,142,161
第45計算期間	21,305,927	50,191,213	2,467,256,875
第46計算期間	12,684,892	30,885,846	2,449,055,921
第47計算期間	13,992,985	85,668,276	2,377,380,630
第48計算期間	12,489,958	37,662,086	2,352,208,502
第49計算期間	7,188,856	35,506,454	2,323,890,904
第50計算期間	7,739,810	54,186,538	2,277,444,176
第51計算期間	7,169,978	37,467,443	2,247,146,711
第52計算期間	6,484,764	44,558,799	2,209,072,676
第53計算期間	7,186,755	32,982,946	2,183,276,485
第54計算期間	15,020,135	43,986,371	2,154,310,249
第55計算期間	16,586,839	123,752,534	2,047,144,554
第56計算期間	4,941,554	167,434,378	1,884,651,730
第57計算期間	25,383,852	31,776,413	1,878,259,169
第58計算期間	25,711,559	57,296,068	1,846,674,660
第59計算期間	18,594,772	47,436,910	1,817,832,522

&lt;参考&gt;

「アジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンド」

(1) 投資状況

平成29年6月30日現在  
(単位：円)

資産の種類	国/地域名	時価合計	投資比率(%)
株式	オーストラリア	542,632,317	30.88
	香港	297,510,083	16.93
	インド	197,351,506	11.23
	台湾	159,315,430	9.06
	ニュージーランド	136,135,305	7.75
	韓国	74,696,062	4.25
	シンガポール	64,245,729	3.66
	フィリピン	56,319,222	3.20
	インドネシア	45,410,080	2.58
	タイ	25,969,944	1.48
	マレーシア	19,472,371	1.11
投資証券	シンガポール	38,025,803	2.16
	ニュージーランド	6,904,197	0.39
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		93,511,127	5.32
純資産総額		1,757,499,176	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

(2) 投資資産

投資有価証券の主要銘柄

a 評価額上位30銘柄

平成29年6月30日現在

国/ 地域	銘柄	種類	業種	数量	上段：帳簿価額 下段：評価額		利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)		
オースト ラリア	CHALLENGER LTD	株式	各種金融	125,090	1,096.20 1,181.52	137,124,858 147,797,312		8.41
台湾	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	株式	半導体・半導体製 造装置	116,000	780.16 772.80	90,498,560 89,644,800		5.10
韓国	MACQUARIE KOREA INFRA FUND	株式	各種金融	73,847	855.43 848.56	63,171,086 62,663,979		3.57
オースト ラリア	G.U.D. HOLDINGS LTD	株式	耐久消費財・アパ レル	55,064	1,106.55 1,125.51	60,931,135 61,975,126		3.53
インド	HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	株式	銀行	19,480	2,882.60 2,856.35	56,153,048 55,641,698		3.17
オースト ラリア	AUST AND NZ BANKING GROUP	株式	銀行	22,186	2,388.04 2,500.94	52,981,228 55,485,934		3.16
オースト ラリア	COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	株式	銀行	6,869	6,824.59 7,240.84	46,878,137 49,737,354		2.83
オースト ラリア	APA GROUP	株式	公益事業	59,143	804.92 801.47	47,605,454 47,401,576		2.70
オースト ラリア	WESTPAC BANKING CORP	株式	銀行	17,031	2,582.81 2,668.99	43,987,915 45,455,647		2.59
インド	INDUSIND BANK LTD	株式	銀行	16,722	2,671.98 2,589.21	44,680,974 43,296,811		2.46
香港	CHINA STATE CONSTRUCTION INT	株式	資本財	208,000	185.11 191.71	38,503,920 39,876,928		2.27
シンガ ポール	SINGAPORE TECH ENGINEERING	株式	資本財	128,900	306.27 303.83	39,478,821 39,164,666		2.23
香港	TRAVELSKY TECHNOLOGY LTD-H	株式	ソフトウェア・ サービス	115,000	328.61 332.92	37,790,725 38,285,800		2.18
シンガ ポール	FRASERS LOGISTICS & INDUSTRI	投資証 券		439,500	85.30 86.52	37,490,229 38,025,803		2.16
オースト ラリア	AMCOR LIMITED	株式	素材	25,547	1,373.70 1,424.55	35,094,148 36,393,116		2.07
フィリ ピン	METROPOLITAN BANK & TRUST	株式	銀行	185,609	192.69 192.69	35,766,111 35,766,111		2.04
香港	VTECH HOLDINGS LTD	株式	テクノロジー・ ハードウェアおよ び機器	19,800	1,812.40 1,776.53	35,885,619 35,175,294		2.00
インド	LARSEN & TOUBRO LTD	株式	資本財	11,595	3,111.85 2,981.38	36,081,900 34,569,188		1.97

ニュージーランド	AUCKLAND INTL AIRPORT LTD	株式	運輸	54,230	582.27 588.01	31,576,556 31,887,874	1.81
香港	JIANGSU EXPRESS CO LTD-H	株式	運輸	192,000	161.58 158.42	31,023,552 30,417,408	1.73
香港	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	株式	銀行	338,000	92.70 87.24	31,332,938 29,489,824	1.68
台湾	KING SLIDE WORKS CO LTD	株式	資本財	18,000	1,604.48 1,551.12	28,880,640 27,920,160	1.59
インドネシア	BANK CENTRAL ASIA TBK PT	株式	銀行	181,400	148.68 152.46	26,970,552 27,656,244	1.57
ニュージーランド	FISHER & PAYKEL HEALTHCARE C	株式	ヘルスケア機器・サービス	29,041	897.18 948.85	26,055,277 27,555,718	1.57
ニュージーランド	SKELLERUP HOLDINGS LTD	株式	資本財	197,300	131.21 139.41	25,888,916 27,506,974	1.57
オーストラリア	BHP BILLITON LIMITED	株式	素材	13,336	2,028.67 2,023.50	27,054,439 26,985,481	1.54
タイ	THANACHART CAPITAL PCL-NVDR	株式	銀行	171,600	148.05 151.34	25,405,380 25,969,944	1.48
インド	BHARTI INFRA TEL LTD	株式	電気通信サービス	38,870	669.63 661.85	26,028,809 25,726,109	1.46
シンガポール	DBS GROUP HOLDINGS LTD	株式	銀行	14,800	1,683.29 1,694.66	24,912,733 25,081,062	1.43
オーストラリア	SYDNEY AIRPORT	株式	運輸	39,908	633.42 625.66	25,278,645 24,969,110	1.42

(注1) 株式の数量は株式数、投資証券の数量は口数です。

(注2) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

## b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

平成29年6月30日現在

種類 / 業種別		投資比率(%)
株式	エネルギー	1.37
	素材	3.61
	資本財	9.62
	運輸	6.13
	自動車・自動車部品	1.02
	耐久消費財・アパレル	5.75
	小売	1.18
	食品・飲料・タバコ	0.68
	ヘルスケア機器・サービス	2.16
	銀行	24.89
	各種金融	13.14
	保険	1.38
	不動産	1.78
	ソフトウェア・サービス	2.18
	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.00
	電気通信サービス	5.08
	公益事業	3.85
半導体・半導体製造装置	6.30	
小計	92.12	
投資証券		2.56
合計		94.68

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

### 投資不動産物件

該当事項はありません。

### その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。



## &lt; 参考 &gt;

## 「好配当中国A株オープン マザーファンド」

## (1) 投資状況

平成29年6月30日現在  
(単位:円)

資産の種類	国/地域名	時価合計	投資比率(%)
株式	中国	129,233,131	96.41
コール・ローン、その他資産 (負債控除後)		4,812,080	3.59
純資産総額		134,045,211	100.00

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。

## (2) 投資資産

## 投資有価証券の主要銘柄

## a 評価額上位30銘柄

平成29年6月30日現在

国/ 地域	銘柄	種類	業種	株式数	上段:帳簿価額 下段:評価額		利率(%) 償還期限 (年/月/日)	投資 比率 (%)
					単価(円)	金額(円)		
中国	MIDEA GROUP CO LTD-A	株式	耐久消費財・アパレル	22,450	664.95 712.14	14,928,127 15,987,543		11.93
中国	HANGZHOU HIKVISION DIGITAL-A	株式	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	28,900	515.13 536.25	14,887,257 15,497,625		11.56
中国	SHANGHAI PHARMACEUTICALS-A	株式	ヘルスケア機器・サービス	30,400	440.05 472.89	13,377,672 14,375,856		10.72
中国	CHINA YANGTZE POWER CO LTD-A	株式	公益事業	54,000	245.52 250.63	13,258,080 13,534,290		10.10
中国	CHINA JUSHI CO LTD -A	株式	素材	67,080	177.87 179.02	11,931,519 12,008,997		8.96
中国	KWEICHOW MOUTAI CO LTD-A	株式	食品・飲料・タバコ	1,400	7,684.71 7,804.66	10,758,594 10,926,531		8.15
中国	HANGZHOU ROBAM APPLIANCES-A	株式	耐久消費財・アパレル	14,260	745.80 703.72	10,635,108 10,035,118		7.49
中国	CHINA PACIFIC INSURANCE GR-A	株式	保険	17,400	529.48 556.87	9,213,039 9,689,625		7.23
中国	SAIC MOTOR CORP LTD-A	株式	自動車・自動車部品	18,600	510.51 507.21	9,495,486 9,434,106		7.04
中国	SHANGHAI TUNNEL ENGINEERIN-A	株式	資本財	55,800	163.84 165.16	9,142,551 9,216,207		6.88
中国	BEIJING ORIGINWATER TECHNO-A	株式	商業・専門サービス	27,800	319.11 306.73	8,871,258 8,527,233		6.36

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価金額の比率です。

## b 全銘柄の種類 / 業種別投資比率

平成29年6月30日現在

種類 / 業種別	投資比率(%)
株式	
素材	8.96
資本財	6.88
商業・専門サービス	6.36
自動車・自動車部品	7.04
耐久消費財・アパレル	19.41
食品・飲料・タバコ	8.15
ヘルスケア機器・サービス	10.72
保険	7.23
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	11.56
公益事業	10.10
合計	96.41

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該種類または業種の評価金額の比率です。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

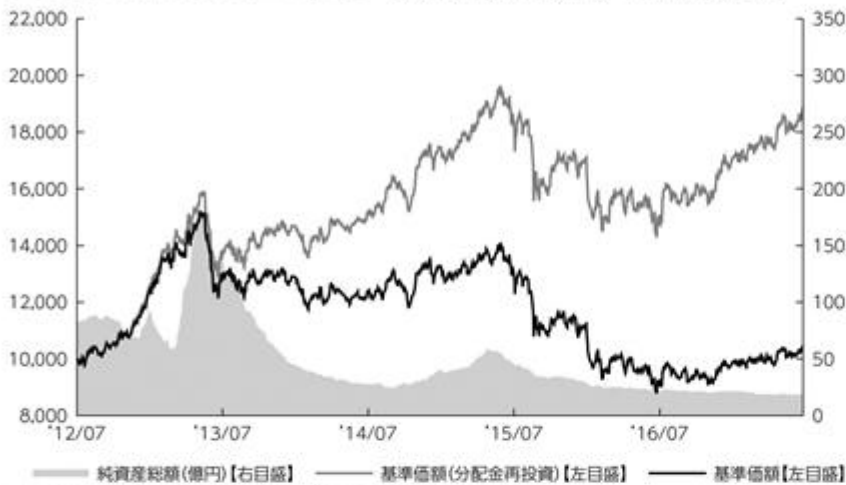
(参考情報) 運用実績



## 運用実績

2017年6月30日現在

### ■ 基準価額・純資産の推移 2012年7月6日(設定日)～2017年6月30日



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は10,000を起点として表示
- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は運用報酬(信託報酬)控除後です。

### ■ 基準価額・純資産

基準価額	10,475円
純資産総額	19.1億円

### ■ 分配の推移

2017年6月	70円
2017年5月	70円
2017年4月	70円
2017年3月	70円
2017年2月	70円
2017年1月	70円
直近1年間累計	990円
設定来累計	6,940円

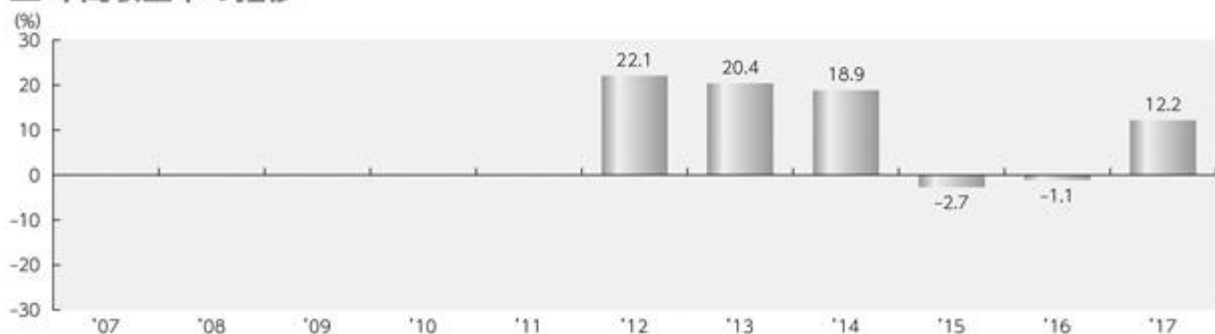
・分配金は1万口当たり、税引前

### ■ 主要な資産の状況

資産別構成	比率	通貨別構成	比率	組入上位銘柄	業種	国・地域	比率
外国株式	91.5%	オーストラリアドル	28.6%	1 CHALLENGER LTD	各種金融	オーストラリア	7.7%
外国リート	2.4%	香港ドル	15.8%	2 TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	半導体・半導体製造装置	台湾	4.7%
		インドルピー	10.3%	3 MACQUARIE KOREA INFRA FUND	各種金融	韓国	3.3%
		ニュー台湾ドル	8.5%	4 G.U.D. HOLDINGS LTD	耐久消費財・アパレル	オーストラリア	3.2%
		ニュージーランドドル	7.5%	5 HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	銀行	インド	2.9%
		中国元	7.0%	6 AUST AND NZ BANKING GROUP	銀行	オーストラリア	2.9%
		シンガポールドル	6.3%	7 COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	銀行	オーストラリア	2.6%
		韓国ウォン	4.0%	8 APA GROUP	公益事業	オーストラリア	2.5%
コールローン他 (負債控除後)	6.1%	その他	12.0%	9 WESTPAC BANKING CORP	銀行	オーストラリア	2.4%
合計	100.0%	合計	100.0%	10 INDUSIND BANK LTD	銀行	インド	2.3%

- ・各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- ・コールローン他には未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。
- ・外国株式の業種は、GICS(世界産業分類基準)によるもの。Global Industry Classification Standard ("GICS")は、MSCI Inc.とS&Pが開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。

### ■ 年間収益率の推移



- ・収益率は基準価額(分配金再投資)で計算
- ・2012年は設定日から年末までの、2017年は年年初から6月30日までの収益率を表示
- ・ファンドにベンチマークはありません。

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

- ・ 取得の申込みは、申込期間において、原則として販売会社の営業日の午後3時まで、販売会社所定の方法で行われます。取得申込みが行われ、かつ当該取得申込みに係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。
- ・ 取得の申込みのときに「分配金受取コース」または「自動けいぞく投資コース」のどちらかを選択することとなります。（原則として、コースを途中で変更することはできません。）  
販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。
- ・ 次のいずれかに該当する日（以下「申込不可日」といいます。）には、取得の申込みはできません。  
（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）
  - ・ オーストラリア証券取引所の休業日
  - ・ シドニーの銀行の休業日
  - ・ メルボルンの銀行の休業日
  - ・ 台湾証券取引所の休業日
- ・ 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）による市場の閉鎖または流動性の極端な低下および資金の受渡しに関する障害等）が発生したとき等には、取得申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた取得申込みの受付を取消すことがあります。
- ・ 取得申込みの受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の取得申込みの受付を撤回できます。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとし、振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、信託契約締結日に生じた受益権については信託契約締結時に、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

#### (1) 申込単位

販売会社が定める単位（当初元本1口＝1円）

ただし、「自動けいぞく投資コース」に係る収益分配金の再投資による取得申込みについては、1口単位とします。

申込単位の照会先は販売会社となります。

#### (2) 申込手数料

手数料率：上限3.24%（税抜3.00%）

申込手数料は、消費税等相当額を含みます。

「自動けいぞく投資コース」に係る収益分配金の再投資による取得申込みについては、無手数料とします。申込手数料の照会先は販売会社となります。

#### (3) 申込代金

取得申込みの受付日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額に、前記手数料率を乗じて得た申込手数料（消費税等相当額を含みます。）を加えた額

(4) 払込期日

取得申込者は、申込代金を販売会社が指定する期日までに払込むものとします。

## 2【換金（解約）手続等】

- ・ 換金（解約）の請求は、原則として販売会社の営業日の午後3時まで、販売会社所定の方法で行われます。換金請求が行われ、かつ当該換金請求に係る販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の受付分とします。

信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求には制限を設ける場合があります。

- ・ 申込不可日には、換金の請求はできません。（申込不可日は、販売会社または委託会社において確認することができます。）
- ・ 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）による市場の閉鎖または流動性の極端な低下および資金の受渡しに関する障害等）が発生したとき等には、換金請求の受付を中止することおよびすでに受付けた換金請求の受付を取消すことがあります。
- ・ 換金請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行った当日の換金請求を撤回できます。ただし、受益者がその換金請求を撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に換金請求を受付けたものとします。

換金の請求を行う受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るファンドの一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。

なお、換金の請求を受益者がするときは、振替受益権をもって行うものとします。

(1) 解約単位

販売会社が定める単位

(2) 解約価額

解約の受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額

(3) 解約手数料

かかりません。

(4) 信託財産留保額

解約の受付日の翌営業日の基準価額の0.2%

(5) 支払日

解約代金は、原則として解約の受付日から起算して5営業日目から、販売会社において、受益者に支払います。

(6) 大口解約の制限

ファンドの資金管理を円滑に行うため、原則として1日1件5億円を超える解約は行えないものとします。また、市況動向等により、これ以外にも大口の解約請求に制限を設ける場合があります。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

##### 基準価額の算出方法

基準価額は、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。（ただし、便宜上1万口あたりに換算した価額で表示することがあります。）

\* 基準価額 = 純資産総額 ÷ 受益権総口数

##### ファンドの主な投資対象の評価方法

###### a. マザーファンド受益証券

計算日の基準価額で評価します。

###### b. 外国株式および外国不動産投資信託証券

原則として金融商品取引所における計算時に知り得る直近の日の最終相場で評価します。

###### c. 外貨建資産

外貨建資産の円換算については、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値をもとに評価します。また、予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

##### 基準価額の算出頻度

委託会社の毎営業日において算出されます。

##### 基準価額の照会方法

基準価額の照会先は、販売会社または以下の通りです。

三菱UFJ国際投信株式会社 電話番号：0120-151034（お客様専用フリーダイヤル） （受付時間は営業日の午前9時～午後5時） ホームページ アドレス： <a href="http://www.am.mufig.jp/">http://www.am.mufig.jp/</a>
---

#### (2)【保管】

該当事項はありません。

#### (3)【信託期間】

平成24年7月6日から平成34年6月10日までとします。

なお、委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたとき、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等の場合をいいます。）による市場の閉鎖または流動性の極端な低下および資金の受渡しに関する障害等）が発生したとき等には、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。その場合において、あらかじめ、延長しようとする旨を監督官庁に届出ます。

#### (4)【計算期間】

毎月12日から翌月11日までとします。

ただし、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

第1計算期間は信託契約締結日から平成24年8月13日までとなります。

なお、最終計算期間の終了日は、ファンドの信託期間の終了日とします。

## (5)【その他】

## ファンドの償還条件等

- a. 委託会社は、信託期間中において、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
- b. 委託会社は、一部解約により受益権の総口数が当初設定に係る受益権総口数の10分の1または10億口を下ることとなった場合には、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
- c. 委託会社は、信託の終了について、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日および信託契約の解約の理由等の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- d. c. の書面決議において、受益者(委託会社およびファンドの信託財産にファンドの受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下d. において同じ。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- e. c. の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います。
- f. c. からe. までの規定は、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であってc. からe. までの手続きを行うことが困難な場合にも適用しません。
- g. 委託会社は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- h. 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。
- i. 監督官庁がこの信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、この信託は、のb. に規定する書面決議が否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
- j. 受託会社が委託会社の承諾を受けてその任務を辞任した場合、または委託会社もしくは受益者が裁判所に受託会社の解任を申立て裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

## 約款の変更

- a. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。)を行うことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、a. からg. までに定める以外の方法によって変更することができないものとし、

- b. 委託会社は、a. の事項 ( a. の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、a. の併合事項にあってはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。 ) について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由等の事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- c. b. の書面決議において、受益者 ( 委託会社およびファンドの信託財産にファンドの受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託会社を除きます。以下c. において同じ。 ) は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- d. b. の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行います。
- e. 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- f. b. からe. までの規定は、委託会社が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは適用しません。
- g. a. からf. までの規定にかかわらず、ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合に係る一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行うことはできません。

#### 反対受益者の受益権買取請求の不適用

ファンドは、受益者が自己に帰属する受益権につき、一部解約の実行の請求を行ったときは、委託会社が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行う場合において、投資信託及び投資法人に関する法律に定める反対受益者の受益権買取請求の規定の適用を受けません。

#### 他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

ファンドの受益者は、委託会社または受託会社に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行うことはできません。

- a. 他の受益者の氏名または名称および住所
- b. 他の受益者が有する受益権の内容

#### 関係法人との契約の更改

- a. 委託会社と投資顧問会社との間で締結された「投資顧問契約」の有効期間は、1年間とします。ただし、相手方に対し90日以上の前書の書面による意思表示の通知がないときは、1年毎に自動延長するものとします。
- b. 委託会社と販売会社との間で締結された「投資信託受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約」の契約期間は、契約締結日から1年とします。ただし双方から契約満了日の3ヵ月前までに別段の意思表示のないときは、さらに1年間延長するものとし、その後も同様とします。

#### 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.am.mufg.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。



### 信託事務の委託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託に係る契約書類に基づいて所定の事務を行います。

### 運用報告書

委託会社は、6ヵ月毎（毎年6月および12月の決算日を基準とします。）および償還時に、運用経過等を記載した交付運用報告書および運用報告書（全体版）を作成します。

交付運用報告書は、販売会社を經由して知れている受益者に交付します。

運用報告書（全体版）については委託会社のホームページに掲載します。なお、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、当該受益者にこれを交付します。

## 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は以下の通りです。

### (1) 収益分配金に対する受領権

受益者は、収益分配金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

#### 「分配金受取コース」

収益分配金は、税金を差引いた後、毎計算期間の終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として決算日から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、収益分配金について支払開始日から5年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

#### 「自動けいぞく投資コース」

収益分配金は、税金を差引いた後、「自動けいぞく投資契約」に基づいて、決算日の基準価額により自動的に無手数料で全額再投資されます。

### (2) 償還金に対する受領権

受益者は、償還金を持ち分に応じて受領する権利を有します。

償還金は、信託終了日後1ヵ月以内の委託会社の指定する日（原則として償還日（休業日の場合は翌営業日）から起算して5営業日以内）から、販売会社において、受益者に支払います。

ただし、受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いの請求を行わない場合はその権利を失い、その金銭は委託会社に帰属します。

### (3) 換金（解約）請求権

受益者は、自己に帰属する受益権につき、換金（解約）請求する権利を有します。

くわしくは「第2 管理及び運営 2 換金（解約）手続等」を参照してください。

### (4) 帳簿書類閲覧権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内にファンドの信託財産に関する帳簿書類の閲覧を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

- 1 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2 毎月決算ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 3 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期（平成28年12月13日から平成29年6月12日まで）の財務諸表について、PwCあらた有限責任監査法人により監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## 【アジア・オセアニア好配当株オープン（毎月決算型）】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 [平成28年12月12日現在]	当期 [平成29年6月12日現在]
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	23,756,667	20,745,721
親投資信託受益証券	2,131,258,074	1,824,234,953
未収入金	16,000,000	13,000,000
流動資産合計	2,171,014,741	1,857,980,674
資産合計	2,171,014,741	1,857,980,674
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	15,282,935	12,724,827
未払解約金	1,345,421	-
未払受託者報酬	95,653	88,061
未払委託者報酬	2,869,549	2,641,779
未払利息	33	37
その他未払費用	19,120	17,604
流動負債合計	19,612,711	15,472,308
負債合計	19,612,711	15,472,308
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	1 2,183,276,485	1 1,817,832,522
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2 31,874,455	2 24,675,844
（分配準備積立金）	103,679	78,801
元本等合計	2,151,402,030	1,842,508,366
純資産合計	2,151,402,030	1,842,508,366
負債純資産合計	2,171,014,741	1,857,980,674

## (2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前期		当期	
	自 平成28年 6月14日 至 平成28年12月12日		自 平成28年12月13日 至 平成29年 6月12日	
<b>営業収益</b>				
受取利息		98		145
有価証券売買等損益		242,637,076		151,237,781
営業収益合計		242,637,174		151,237,926
<b>営業費用</b>				
支払利息		6,008		5,242
受託者報酬		578,578		531,046
委託者報酬		17,357,268		15,931,373
その他費用		115,654		106,154
営業費用合計		18,057,508		16,573,815
営業利益又は営業損失( )		224,579,666		134,664,111
経常利益又は経常損失( )		224,579,666		134,664,111
当期純利益又は当期純損失( )		224,579,666		134,664,111
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )		642,633		1,469,368
期首剰余金又は期首欠損金( )		138,628,104		31,874,455
剰余金増加額又は欠損金減少額		15,367,618		4,568,180
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		15,367,618		3,955,431
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		612,749
剰余金減少額又は欠損金増加額		3,170,439		2,749,253
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		-		1,722,825
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		3,170,439		1,026,428
分配金		1 129,380,563		1 81,402,107
期末剰余金又は期末欠損金( )		31,874,455		24,675,844

## （ 3 ） 【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	ファンドの特定期間 当ファンドは、原則として毎年6月11日および12月11日を特定期間の末日としておりますが、前特定期間および当特定期間においては当該日が休業日のため、当特定期間は平成28年12月13日から平成29年6月12日までとなっております。

（貸借対照表に関する注記）

	前期 [平成28年12月12日現在]	当期 [平成29年6月12日現在]
1 期首元本額	2,377,380,630円	2,183,276,485円
期中追加設定元本額	48,260,121円	106,238,711円
期中一部解約元本額	242,364,266円	471,682,674円
2 元本の欠損 純資産額が元本総額を下回っており、その差額であります。	31,874,455円	
3 受益権の総数	2,183,276,485口	1,817,832,522口
4 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.9854円 (9,854円)	1.0136円 (10,136円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

前期（自平成28年6月14日 至平成28年12月12日）

## 1 分配金の計算過程

（自平成28年6月14日 至平成28年7月11日）		
費用控除後の配当等収益額	A	6,618,603円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	550,356,523円
分配準備積立金額	D	47,234,885円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	604,210,011円
当ファンドの期末残存口数	F	2,352,208,502口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,568円
1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	23,522,085円

（自平成28年7月12日 至平成28年8月12日）		
費用控除後の配当等収益額	A	6,392,493円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	543,835,584円
分配準備積立金額	D	29,884,747円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	580,112,824円
当ファンドの期末残存口数	F	2,323,890,904口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,496円
1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	23,238,909円

（自平成28年8月13日 至平成28年9月12日）		
費用控除後の配当等収益額	A	9,929,538円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	533,038,159円
分配準備積立金額	D	12,800,493円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	555,768,190円
当ファンドの期末残存口数	F	2,277,444,176口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,440円
1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	22,774,441円

( 自 平成28年9月13日 至 平成28年10月11日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	4,294,406円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	525,735,182円
分配準備積立金額	D	238,963円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	530,268,551円
当ファンドの期末残存口数	F	2,247,146,711口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,359円
1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	22,471,467円

( 自 平成28年10月12日 至 平成28年11月11日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	499,155,989円
分配準備積立金額	D	66,905円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	499,222,894円
当ファンドの期末残存口数	F	2,209,072,676口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,259円
1万口当たり分配金額	H	100円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	22,090,726円

( 自 平成28年11月12日 至 平成28年12月12日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	4,373,742円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	471,503,894円
分配準備積立金額	D	96,489円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	475,974,125円
当ファンドの期末残存口数	F	2,183,276,485口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,180円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	15,282,935円

当期(自 平成28年12月13日 至 平成29年6月12日)

1 分配金の計算過程

( 自 平成28年12月13日 至 平成29年1月11日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	2,957,849円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	454,499,644円
分配準備積立金額	D	144,119円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	457,601,612円
当ファンドの期末残存口数	F	2,154,310,249口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,124円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	15,080,171円

( 自 平成29年1月12日 至 平成29年2月13日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	1,087,409円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	420,436,275円
分配準備積立金額	D	168,653円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	421,692,337円
当ファンドの期末残存口数	F	2,047,144,554口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,059円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	14,330,011円

( 自 平成29年2月14日 至 平成29年3月13日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	7,003,068円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	375,012,005円
分配準備積立金額	D	37,232円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	382,052,305円
当ファンドの期末残存口数	F	1,884,651,730口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	2,027円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	13,192,562円

( 自 平成29年3月14日 至 平成29年4月11日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	2,016,356円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	367,566,604円
分配準備積立金額	D	88,480円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	369,671,440円
当ファンドの期末残存口数	F	1,878,259,169口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,968円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	13,147,814円

( 自 平成29年4月12日 至 平成29年5月11日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	5,322,036円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	350,516,115円
分配準備積立金額	D	90,421円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	355,928,572円
当ファンドの期末残存口数	F	1,846,674,660口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,927円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	12,926,722円

( 自 平成29年5月12日 至 平成29年6月12日 )		
費用控除後の配当等収益額	A	2,137,411円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	
収益調整金額	C	337,625,040円
分配準備積立金額	D	122,789円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	339,885,240円
当ファンドの期末残存口数	F	1,817,832,522口
1万口当たり収益分配対象額	G=E/F*10,000	1,869円
1万口当たり分配金額	H	70円
収益分配金金額	I=F*H/10,000	12,724,827円

## （金融商品に関する注記）

## 1 金融商品の状況に関する事項

区 分	前期 （自平成28年6月14日 至平成28年12月12日）	当期 （自平成28年12月13日 至平成29年6月12日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、親投資信託受益証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 親投資信託受益証券は、外貨の決済のために為替予約取引を利用しております。当該デリバティブ取引は、為替相場の変動による市場リスクおよび信用リスク等を有しておりますが、ごく短期間で実際に外貨の受渡を伴うことから、為替相場の変動によるリスクは限定的であります。	同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	また、親投資信託受益証券に係るデリバティブ取引の時価等に関する事項についての契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額または計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。 ファンドのコンセプトに応じて、適切にコントロールするため、委託会社では、運用部門において、ファンドに含まれる各種投資リスクを常時把握しつつ、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲で運用を行っております。 また、運用部門から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っており、この結果は運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされます。	同 左

## 2 金融商品の時価等に関する事項

区 分	前期 [平成28年12月12日現在]	当期 [平成29年6月12日現在]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同 左
2 時価の算定方法	売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	同 左 同 左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。	同 左

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種 類	前期 [平成28年12月12日現在]	当期 [平成29年6月12日現在]
	最終計算期間の損益に含まれた評価差額(円)	最終計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	139,265,022	28,134,935
合計	139,265,022	28,134,935

## （デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項  
該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。



## （４）【附属明細表】

## 第１ 有価証券明細表

## （１）株式

該当事項はありません。

## （２）株式以外の有価証券

（単位：円）

種 類	銘 柄	口数	評 価 額	備 考
親投資信託受益証券	アジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンド	880,791,219	1,695,523,096	
	好配当中国A株オープン マザーファンド	39,620,716	128,711,857	
	親投資信託受益証券 小計	920,411,935	1,824,234,953	
	合計	920,411,935	1,824,234,953	

## 第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## &lt;参考&gt;

当ファンドは親投資信託受益証券を主要投資対象としております。  
貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券の状況は以下の通りです。

「アジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンド」の状況  
なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

## （１）貸借対照表

	[ 平成28年12月12日現在 ]	[ 平成29年6月12日現在 ]
	金 額 (円)	金 額 (円)
資産の部		
流動資産		
預金	33,147,989	48,858,659
コール・ローン	23,560,270	20,445,215
株式	1,846,915,250	1,589,370,559
投資証券	87,734,381	43,351,388
派生商品評価勘定	843	
未収入金	820,520	287,051
未収配当金	5,220,277	6,248,666
流動資産合計	1,997,399,530	1,708,561,538
資産合計	1,997,399,530	1,708,561,538
負債の部		
流動負債		
派生商品評価勘定	196	
未払解約金	16,000,000	13,000,000
未払利息	33	37
流動負債合計	16,000,229	13,000,037
負債合計	16,000,229	13,000,037
純資産の部		
元本等		
元本	1,105,933,109	880,791,219
剰余金		
剰余金又は欠損金 ( )	875,466,192	814,770,282
元本等合計	1,981,399,301	1,695,561,501
純資産合計	1,981,399,301	1,695,561,501
負債純資産合計	1,997,399,530	1,708,561,538

（注１）親投資信託の計算期間は、原則として、毎年6月12日から12月11日まで、および12月12日から翌年6月11日までであります。

## (2) 注記表

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。 投資証券は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

## (貸借対照表に関する注記)

	[ 平成28年12月12日現在 ]	[ 平成29年6月12日現在 ]
1 期首	平成28年6月14日	平成28年12月13日
期首元本額	1,297,558,543円	1,105,933,109円
期首からの追加設定元本額		50,938,003円
期首からの一部解約元本額	191,625,434円	276,079,893円
元本の内訳*		
アジア・オセアニア好配株オープン（毎月決算型）	1,105,933,109円	880,791,219円
（合計）	1,105,933,109円	880,791,219円
2 受益権の総数	1,105,933,109口	880,791,219口
3 1口当たり純資産額	1.7916円	1.9250円
（1万口当たり純資産額）	(17,916円)	(19,250円)

\* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## (金融商品に関する注記)

## 1 金融商品の状況に関する事項

区分	(自平成28年6月14日 至平成28年12月12日)	(自平成28年12月13日 至平成29年6月12日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 当ファンドは、投資証券に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 デリバティブ取引については、当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左 同 左 同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

区 分	[ 平成28年12月12日現在 ]	[ 平成29年6月12日現在 ]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はあります。	同 左
2 時価の算定方法	<p>売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。</p> <p>デリバティブ取引は、（デリバティブ取引に関する注記）に記載しております。</p> <p>上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。</p>	<p>同 左</p> <p>デリバティブ取引は、該当事項はありません。</p> <p>同 左</p>
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種 類	[ 平成28年12月12日現在 ]	[ 平成29年6月12日現在 ]
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	58,829,784	150,286,946
投資証券	4,659,467	4,714,415
合計	63,489,251	155,001,361

(注) 当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

(デリバティブ取引に関する注記)

取引の時価等に関する事項

通貨関連

区 分	種 類	[ 平成28年12月12日現在 ]			
		契 約 額 等(円)		時 価 (円)	評 価 損 益 (円)
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	ニュージーランドドル	89,317		89,513	196
	買建 アメリカドル	89,317		90,160	843
	合 計	178,634		179,673	647

[ 平成29年6月12日現在 ]

該当事項はありません。

(注) 時価の算定方法

- 対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。  
 為替予約の受渡日（以下「当該日」といいます。）の対顧客先物相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は、当該対顧客先物相場の仲値で評価しております。  
 当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。  
 (イ) 当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの対顧客先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。  
 (ロ) 当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。
- 対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

上記取引で、ヘッジ会計が適用されているものはありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

該当事項はありません。

## (3) 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

(単位:円)

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
オーストラリアドル					
	AMCOR LIMITED	25,547	15.940000	407,219.18	
	APA GROUP	59,143	9.340000	552,395.62	
	AUST AND NZ BANKING GROUP	22,186	27.710000	614,774.06	
	BHP BILLITON LIMITED	13,336	23.540000	313,929.44	
	CHALLENGER LTD	125,090	12.720000	1,591,144.80	
	COMMONWEALTH BANK OF AUSTRAL	6,869	79.190000	543,956.11	
	G.U.D. HOLDINGS LTD	55,064	12.840000	707,021.76	
	NATIONAL AUSTRALIA BANK LTD	8,600	29.400000	252,840.00	
	STEADFAST GROUP LTD	103,861	2.750000	285,617.75	
	SYDNEY AIRPORT	39,908	7.350000	293,323.80	
	WESTPAC BANKING CORP	17,031	29.970000	510,419.07	
	オーストラリアドル 小計	476,635		6,072,641.59 (504,089,978)	
香港ドル					
	CHINA CONSTRUCTION BANK-H	338,000	6.460000	2,183,480.00	
	CHINA OVERSEAS LAND & INVEST	30,000	23.700000	711,000.00	
	CHINA STATE CONSTRUCTION INT	208,000	12.900000	2,683,200.00	
	HANG SENG BANK LTD	9,100	163.900000	1,491,490.00	
	HENDERSON LAND DEVELOPMENT	31,000	46.000000	1,426,000.00	
	HENDERSON LAND DEVELOPMENT-NEW	3,100	46.000000	142,600.00	
	HKT TRUST AND HKT LTD-SS	55,000	10.260000	564,300.00	
	JIANGSU EXPRESS CO LTD-H	192,000	11.260000	2,161,920.00	
	NAMESON HOLDINGS LTD	854,000	1.580000	1,349,320.00	
	PACIFIC TEXTILES HOLDINGS	165,000	8.880000	1,465,200.00	
	PETROCHINA CO LTD-H	348,000	5.080000	1,767,840.00	
	TRAVELSKY TECHNOLOGY LTD-H	115,000	22.900000	2,633,500.00	
	VTECH HOLDINGS LTD	19,800	126.300000	2,500,740.00	
	香港ドル 小計	2,368,000		21,080,590.00 (298,079,542)	
シンガポールドル					
	COMFORTDELGRO CORP LTD	93,000	2.410000	224,130.00	
	DBS GROUP HOLDINGS LTD	14,800	20.720000	306,656.00	
	SINGAPORE TECH ENGINEERING	128,900	3.770000	485,953.00	
	シンガポールドル 小計	236,700		1,016,739.00 (80,983,261)	
マレーシアリングット					
	AXIATA GROUP BERHAD	153,000	4.970000	760,410.00	
	マレーシアリングット 小計	153,000		760,410.00 (19,656,598)	
ニュージーランドドル					
	AUCKLAND INTL AIRPORT LTD	54,230	7.100000	385,033.00	
	FISHER & PAYKEL HEALTHCARE C	29,041	10.940000	317,708.54	
	MAINFREIGHT LTD	10,649	22.720000	241,945.28	
	RYMAN HEALTHCARE LTD	15,076	8.470000	127,693.72	
	SKELLERUP HOLDINGS LTD	197,300	1.600000	315,680.00	
	SPARK NEW ZEALAND LTD	57,042	3.680000	209,914.56	
	ニュージーランドドル 小計	363,338		1,597,975.10 (126,863,243)	
タイバーツ					
	THANACHART CAPITAL PCL-NVDR	171,600	45.000000	7,722,000.00	
	タイバーツ 小計	171,600		7,722,000.00 (24,942,060)	
フィリピンペソ					
	METRO PACIFIC INVESTMENTS CO	1,453,400	6.190000	8,996,546.00	
	METROPOLITAN BANK & TRUST	185,609	86.800000	16,110,861.20	
	フィリピンペソ 小計	1,639,009		25,107,407.20 (55,989,518)	
インドネシアルピア					
	BANK CENTRAL ASIA TBK PT	181,400	17,700.000000	3,210,780,000.00	

TELEKOMUNIKASI INDONESIA PER	467,600	4,330.000000	2,024,708,000.00	
インドネシアルピア 小計	649,000		5,235,488,000.00 (43,454,550)	
韓国ウォン				
JINRO DISTILLERS CO LTD	3,728	33.200.000000	123,769,600.00	
MACQUARIE KOREA INFRA FUND	73,847	8,720.000000	643,945,840.00	
韓国ウォン 小計	77,575		767,715,440.00 (75,236,113)	
ニュー台湾ドル				
KING SLIDE WORKS CO LTD	18,000	436.000000	7,848,000.00	
POYA INTERNATIONAL CO LTD	14,563	403.000000	5,868,889.00	
TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC	116,000	212.000000	24,592,000.00	
VANGUARD INTERNATIONAL SEMI	96,000	58.600000	5,625,600.00	
ニュー台湾ドル 小計	244,563		43,934,489.00 (160,800,229)	
インドルピー				
BHARTI INFRA TEL LTD	38,870	382.650000	14,873,605.50	
HOUSING DEVELOPMENT FINANCE	19,480	1,647.200000	32,087,456.00	
INDUSIND BANK LTD	16,722	1,526.850000	25,531,985.70	
LARSEN & TOUBRO LTD	11,595	1,778.200000	20,618,229.00	
MARUTI SUZUKI INDIA LTD	1,413	7,464.850000	10,547,833.05	
POWER GRID CORP OF INDIA LTD	55,642	207.200000	11,529,022.40	
インドルピー 小計	143,722		115,188,131.65 (199,275,467)	
合計	6,523,142		1,589,370,559 (1,589,370,559)	

(注1) 通貨の種類ごとの小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注2) 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

(2) 株式以外の有価証券

(単位：円)

通貨種類	銘柄	口数	評価額	備考
シンガポールドル				
投資証券	FRASERS LOGISTICS & INDUSTRI	439,500.00	461,475.00	
	投資証券 小計	439,500.00	461,475.00 (36,756,483)	
シンガポールドル 小計		439,500.00	461,475.00 (36,756,483)	
ニュージーランドドル				
投資証券	VITAL HEALTHCARE PROPERTY TR	37,251.00	83,069.73	
	投資証券 小計	37,251.00	83,069.73 (6,594,905)	
ニュージーランドドル 小計		37,251.00	83,069.73 (6,594,905)	
合計			43,351,388 (43,351,388)	

(注1) 通貨の種類ごとの小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注2) 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

## 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	組入 投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
オーストラリアドル	株式 11銘柄	100.00%		30.87%
香港ドル	株式 13銘柄	100.00%		18.26%
シンガポールドル	株式 3銘柄	68.78%		4.96%
	投資証券 1銘柄		31.22%	2.25%
マレーシアリングgit	株式 1銘柄	100.00%		1.20%
ニュージーランドドル	株式 6銘柄	95.06%		7.77%
	投資証券 1銘柄		4.94%	0.40%
タイバーツ	株式 1銘柄	100.00%		1.53%
フィリピンペソ	株式 2銘柄	100.00%		3.43%
インドネシアルピア	株式 2銘柄	100.00%		2.66%
韓国ウォン	株式 2銘柄	100.00%		4.61%
ニュー台湾ドル	株式 4銘柄	100.00%		9.85%
インドルピー	株式 6銘柄	100.00%		12.21%

第2 信用取引契約残高明細表  
該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表  
該当事項はありません。

「好配当中国A株オープン マザーファンド」の状況  
なお、以下に記載した情報は、監査の対象外であります。

## (1) 貸借対照表

	[ 平成28年12月12日現在 ]	[ 平成29年6月12日現在 ]
	金額(円)	金額(円)
資産の部		
流動資産		
預金	3,593,105	3,140,280
コール・ローン	893,143	1,218,775
株式	145,379,699	124,352,047
流動資産合計	149,865,947	128,711,102
資産合計	149,865,947	128,711,102
負債の部		
流動負債		
未払金		49
未払利息	1	2
流動負債合計	1	51
負債合計	1	51
純資産の部		
元本等		
元本	1 55,469,804	39,620,716
剰余金		
剰余金又は欠損金( )	94,396,142	89,090,335
元本等合計	149,865,946	128,711,051
純資産合計	149,865,946	128,711,051
負債純資産合計	149,865,947	128,711,102

(注1) 親投資信託の計算期間は、原則として、毎年6月12日から12月11日まで、および12月12日から翌年6月11日までであります。

## (2) 注記表

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	株式は時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として金融商品取引所等における終値で評価しております。
2 デリバティブ等の評価基準及び評価方法	為替予約取引は原則としてわが国における対顧客先物相場の仲値で評価しております。
3 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条および第61条にしたがって処理しております。

## (貸借対照表に関する注記)

	[ 平成28年12月12日現在 ]	[ 平成29年6月12日現在 ]
1 期首		
期首元本額	平成28年6月14日 59,668,662円	平成28年12月13日 55,469,804円
期首からの追加設定元本額		
期首からの一部解約元本額	4,198,858円	15,849,088円
元本の内訳*		
アジア・オセアニア好配当株オープン(毎月決算型)	55,469,804円	39,620,716円
(合計)	55,469,804円	39,620,716円
2 受益権の総数	55,469,804口	39,620,716口
3 1口当たり純資産額	2.7018円	3.2486円
(1万口当たり純資産額)	(27,018円)	(32,486円)

\* 当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## （金融商品に関する注記）

## 1 金融商品の状況に関する事項

区 分	（自平成28年6月14日 至平成28年12月12日）	（自平成28年12月13日 至平成29年6月12日）
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」（昭和26年法律第198号）第2条第4項に定める証券投資信託であり、有価証券等の金融商品への投資を信託約款に定める「運用の基本方針」に基づき行っております。	同 左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、株式に投資しております。当該投資対象は、価格変動リスク、為替リスク等の市場リスク、信用リスクおよび流動性リスクに晒されております。 デリバティブ取引については、当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左
3 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

## 2 金融商品の時価等に関する事項

区 分	[平成28年12月12日現在]	[平成29年6月12日現在]
1 貸借対照表計上額、時価及びその差額	時価で計上しているためその差額はありません。	同 左
2 時価の算定方法	売買目的有価証券は、（重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 デリバティブ取引は、該当事項はありません。 上記以外の金融商品（コールローン等）は、短期間で決済され、時価は帳簿価額と近似していることから、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。	同 左 同 左
3 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	当ファンドに投資する証券投資信託の注記表（金融商品に関する注記）に記載しております。	同 左

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種 類	[平成28年12月12日現在]	[平成29年6月12日現在]
	当期間の損益に含まれた評価差額(円)	当期間の損益に含まれた評価差額(円)
株式	13,301,652	25,038,253
合計	13,301,652	25,038,253

（注）当期間の開始日は、当該親投資信託の期首日であります。

## （デリバティブ取引に関する注記）

取引の時価等に関する事項  
該当事項はありません。

## （関連当事者との取引に関する注記）

該当事項はありません。



## (3) 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

(単位:円)

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
中国元	BEIJING ORIGINWATER TECHNO-A	27,800	19.340000	537,652.00	
	CHINA JUSHI CO LTD -A	67,080	10.780000	723,122.40	
	CHINA PACIFIC INSURANCE GR-A	17,400	32.090000	558,366.00	
	CHINA YANGTZE POWER CO LTD-A	54,000	14.880000	803,520.00	
	HANGZHOU HIKVISION DIGITAL-A	28,900	31.220000	902,258.00	
	HANGZHOU ROBAM APPLIANCES-A	14,260	45.200000	644,552.00	
	KWEICHOW MOUTAI CO LTD-A	1,400	465.740000	652,036.00	
	MIDEA GROUP CO LTD-A	22,450	40.300000	904,735.00	
	SAIC MOTOR CORP LTD-A	18,600	30.940000	575,484.00	
	SHANGHAI PHARMACEUTICALS-A	30,400	26.670000	810,768.00	
	SHANGHAI TUNNEL ENGINEERIN-A	55,800	9.930000	554,094.00	
中国元 小計		338,090		7,666,587.40 (124,352,047)	
合計		338,090		124,352,047 (124,352,047)	

(注1) 通貨の種類ごとの小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注2) 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係るもので、内書であります。

## (2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

## 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	合計金額に 対する比率
中国元	株式 11銘柄	100.00%	100.00%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

平成29年6月30日現在

(単位:円)

資産総額	1,913,776,405
負債総額	3,232,928
純資産総額( - )	1,910,543,477
発行済口数	1,823,866,389 口
1口当たり純資産価額( / )	1.0475 ( 1万口当たり 10,475 )

&lt;参考&gt;

「アジア・オセアニア好配当株オープン マザーファンド」の現況

純資産額計算書

平成29年6月30日現在

(単位:円)

資産総額	1,758,427,793
負債総額	928,617
純資産総額( - )	1,757,499,176
発行済口数	882,812,775 口
1口当たり純資産価額( / )	1.9908 ( 1万口当たり 19,908 )

&lt;参考&gt;

「好配当中国A株オープン マザーファンド」の現況

純資産額計算書

平成29年6月30日現在

(単位:円)

資産総額	134,045,263
負債総額	52
純資産総額( - )	134,045,211
発行済口数	39,620,716 口
1口当たり純資産価額( / )	3.3832 ( 1万口当たり 33,832 )

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

- 1 投資信託受益証券の名義書換等  
該当事項はありません。
- 2 受益者等名簿  
該当事項はありません。
- 3 受益者等に対する特典  
該当事項はありません。
- 4 内国投資信託受益証券の譲渡制限  
該当事項はありません。

（注）ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定められ、委託会社は、この信託の受益権を取扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

### 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとし、

当該申請のある場合には、当該振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとし、ただし、当該振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとし、

前記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めた場合またはやむをえない事情があると判断した場合は、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

### 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

### 受益権の再分割

委託会社は、社振法に定めるところにしたがい、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとし、

### 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

### 償還金

償還金は、償還日において振替機関の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に支払います。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### (1) 資本金の額等

平成29年6月末現在、資本金は2,000百万円です。なお、発行可能株式総数は400,000株であり、211,581株を発行済です。最近5年間における資本金の額の増減はありません。

##### (2) 委託会社の機構

###### ・会社の意思決定機構

業務執行の基本方針を決定し、取締役の職務の執行を監督する機関として、取締役会を設置します。取締役の選任は、総株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席する株主総会にてその議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとします。また、取締役会で決定した基本方針に基づき、経営管理全般に関する執行方針その他重要な事項を協議・決定する機関として、経営会議を設置します。

###### ・投資運用の意思決定機構

###### 投資環境見通しの策定

投資環境会議において、国内外の経済・金融情報および各国証券市場等の調査・分析に基づいた投資環境見通しを策定します。

###### 運用戦略の決定

運用戦略委員会において、で策定された投資環境見通しに沿って運用戦略を決定します。

###### 運用計画の決定

で決定された運用戦略に基づいて、各運用部はファンド毎の運用計画を決定します。

###### ポートフォリオの構築

各運用部の担当ファンドマネジャーは、運用部門から独立したトレーディング部に売買実行の指示をします。トレーディング部は、事前のチェックを行ったうえで、最良執行をめざして売買の執行を行います。

###### 投資行動のモニタリング1

運用部門は、投資行動がファンドコンセプトおよびファンド毎に定めた運用計画に沿っているかどうかの自律的なチェックを行い、逸脱がある場合は速やかな是正を指示します。

###### 投資行動のモニタリング2

運用部門から独立した管理担当部署は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施します。この結果は、運用管理委員会等を通じて運用部門にフィードバックされ、必要に応じて是正を指示します。

###### ファンドに関する法人等の管理

受託会社等、ファンドの運営に関する法人については、その業務に関する委託会社の管理担当部署が、体制、業務執行能力、信用力等のモニタリング・評価を実施します。この結果は、リスク管理委員会等を通じて委託会社の経営陣に報告され、必要に応じて是正が指示されます。

###### 運用・管理に関する監督

内部監査担当部署は、運用、管理等に関する委託会社の業務全般についてその健全性・適切性を担保するために、リスク管理、内部統制、ガバナンス・プロセスの適切性・有効性を検証・評価します。その評価結果は問題点の改善方法の提言等も含めて委託会社の経営陣に報告される、内部監査態勢が構築されています。

さらに、委託会社は、三菱UFJ信託銀行からの投資環境および全資産に関する助言を活用して、質の高い運用サービスの提供に努めています。

ファンドの運用体制等は、今後変更される可能性があります。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）等を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。  
平成29年6月30日現在における委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除きます。）

商品分類	本数 (本)	純資産総額 (百万円)
追加型株式投資信託	815	10,858,750
追加型公社債投資信託	16	1,407,749
単位型株式投資信託	53	400,592
単位型公社債投資信託	2	7,414
合計	886	12,674,506

なお、純資産総額の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して記載しておりますので、表中の個々の数字の合計と合計欄の数字とは一致しないことがあります。

### 3【委託会社等の経理状況】

#### (1) 財務諸表の作成方法について

委託会社である三菱UFJ国際投信株式会社（以下「当社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和38年大蔵省令第59号）」（以下「財務諸表等規則」という。）第2条の規定により、財務諸表等規則及び「金融商品取引業等に関する内閣府令（平成19年内閣府令第52号）」に基づき作成しております。

財務諸表に掲載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

#### (2) 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第32期事業年度（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

## (1)【貸借対照表】

(単位：千円)

	第31期 (平成28年3月31日現在)		第32期 (平成29年3月31日現在)	
<b>(資産の部)</b>				
<b>流動資産</b>				
現金及び預金	2	80,707,781	2	69,212,680
有価証券		2,728,127		36,210
前払費用		402,267		337,699
未収入金		14,286		35,896
未収委託者報酬		11,275,577		10,076,022
未収収益	2	564,923	2	659,405
繰延税金資産		491,700		446,374
金銭の信託	2	30,000	2	30,000
その他		438,012		113,754
流動資産合計		96,652,678		80,948,042
<b>固定資産</b>				
<b>有形固定資産</b>				
建物	1	846,844	1	806,798
器具備品	1	768,584	1	759,446
土地		1,356,000		1,356,000
有形固定資産合計		2,971,428		2,922,245
<b>無形固定資産</b>				
電話加入権		15,822		15,822
ソフトウェア		1,813,951		1,844,549
ソフトウェア仮勘定		341,815		608,066
その他		71		10
無形固定資産合計		2,171,661		2,468,448
<b>投資その他の資産</b>				
投資有価証券		24,223,272		24,327,081
関係会社株式		320,136		320,136
長期差入保証金		686,446		654,402
前払年金費用		499,178		463,105
繰延税金資産		786,810		711,230
その他		51,090		50,235
貸倒引当金		23,600		23,600
投資その他の資産合計		26,543,335		26,502,592
固定資産合計		31,686,425		31,893,286
資産合計		128,339,103		112,841,328



(単位：千円)

	第31期 (平成28年3月31日現在)		第32期 (平成29年3月31日現在)	
<b>(負債の部)</b>				
<b>流動負債</b>				
預り金		199,091		166,493
<b>未払金</b>				
未払収益分配金		101,046		108,024
未払償還金		821,178		547,707
未払手数料	2	4,866,423	2	4,225,009
その他未払金	2	2,521,849	2	2,355,815
未払費用	2	3,419,978	2	3,061,479
未払消費税等		370,110		351,670
未払法人税等		947,540		756,668
賞与引当金		882,523		843,729
役員賞与引当金				100,680
その他		670,983		711,633
<b>流動負債合計</b>		<b>14,800,725</b>		<b>13,228,909</b>
<b>固定負債</b>				
退職給付引当金		508,142		590,154
役員退職慰労引当金		166,789		166,458
時効後支払損引当金		257,105		253,070
<b>固定負債合計</b>		<b>932,038</b>		<b>1,009,684</b>
<b>負債合計</b>		<b>15,732,763</b>		<b>14,238,594</b>
<b>(純資産の部)</b>				
<b>株主資本</b>				
資本金		2,000,131		2,000,131
<b>資本剰余金</b>				
資本準備金		3,572,096		3,572,096
その他資本剰余金		41,160,616		41,160,616
<b>資本剰余金合計</b>		<b>44,732,712</b>		<b>44,732,712</b>
<b>利益剰余金</b>				
利益準備金		342,589		342,589
<b>その他利益剰余金</b>				
別途積立金		6,998,000		6,998,000
繰越利益剰余金		57,079,782		43,034,713
<b>利益剰余金合計</b>		<b>64,420,372</b>		<b>50,375,303</b>
<b>株主資本合計</b>		<b>111,153,216</b>		<b>97,108,147</b>

(単位：千円)

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
評価・換算差額等		
その他有価証券	1,446,576	1,494,586
評価差額金		
繰延ヘッジ損益	6,546	
評価・換算差額等合計	1,453,123	1,494,586
純資産合計	112,606,339	98,602,734
負債純資産合計	128,339,103	112,841,328

## ( 2 ) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第31期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		第32期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
営業収益				
委託者報酬		82,096,942		81,709,776
投資顧問料		2,226,322		2,396,020
その他営業収益		35,063		25,763
営業収益合計		84,358,328		84,131,560
営業費用				
支払手数料	2	34,821,751	2	33,975,255
広告宣伝費		742,632		731,771
公告費				482
調査費				
調査費		1,642,352		1,713,892
委託調査費		14,530,744		13,961,993
事務委託費		751,410		984,749
営業雑経費				
通信費		122,574		158,915
印刷費		704,639		699,940
協会費		51,201		51,995
諸会費		7,730		9,887
事務機器関連費		1,674,745		1,611,608
その他営業雑経費		30,382		11,925
営業費用合計		55,080,164		53,912,419
一般管理費				
給料				
役員報酬		280,681		331,997
給料・手当		5,948,603		6,496,165
賞与引当金繰入		882,523		843,729
役員賞与引当金繰入				100,680
福利厚生費		1,091,897		1,196,210
交際費		17,062		14,843
旅費交通費		212,578		233,159
租税公課		264,376		422,030
不動産賃借料		795,415		706,571
退職給付費用		341,073		441,736
役員退職慰労引当金繰入		34,369		48,393
固定資産減価償却費		1,068,796		1,030,040
諸経費		426,547		474,521
一般管理費合計		11,363,925		12,340,079
営業利益		17,914,238		17,879,061

(単位：千円)

	第31期 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		第32期 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
営業外収益				
受取配当金		235,697		243,048
有価証券利息		523		0
受取利息	2	15,142	2	4,601
投資有価証券償還益		9,315		260,190
収益分配金等時効完成分		71,619		278,148
その他		17,393		4,383
営業外収益合計		349,691		790,372
営業外費用				
投資有価証券償還損		152,298		11,552
時効後支払損引当金繰入		98,891		
事務過誤費		421		218
その他		5,862		4,357
営業外費用合計		257,473		16,128
経常利益		18,006,455		18,653,304
特別利益				
投資有価証券売却益		424,605		259,137
ゴルフ会員権売却益		1,300		
特別利益合計		425,905		259,137
特別損失				
投資有価証券売却損		52,623		42,248
デリバティブ解約損				126,228
有価証券評価損		67,284		
投資有価証券評価損		18,539		157,482
固定資産除却損	1	1,305	1	13,540
減損損失	3	42,073	3	48,575
合併関連費用		829,181		
特別損失合計		1,011,007		388,075
税引前当期純利益		17,421,353		18,524,367
法人税、住民税及び事業税	2	5,796,941	2	5,658,953
法人税等調整額		1,035,591		103,169
法人税等合計		4,761,350		5,762,122
当期純利益		12,660,003		12,762,244

## (3)【株主資本等変動計算書】

第31期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金			
						別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	222,096		222,096	342,589	6,998,000	48,527,422	55,868,012	58,090,240
当期変動額									
剰余金の配当							4,107,643	4,107,643	4,107,643
当期純利益							12,660,003	12,660,003	12,660,003
合併による増加		3,350,000	41,160,616	44,510,616					44,510,616
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計		3,350,000	41,160,616	44,510,616			8,552,359	8,552,359	53,062,976
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	57,079,782	64,420,372	111,153,216

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	2,300,727		2,300,727	60,390,967
当期変動額				
剰余金の配当				4,107,643
当期純利益				12,660,003
合併による増加	903,495	148,745	754,749	45,265,365
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,757,645	155,292	1,602,353	1,602,353
当期変動額合計	854,150	6,546	847,604	52,215,371
当期末残高	1,446,576	6,546	1,453,123	112,606,339

第32期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	57,079,782	64,420,372	111,153,216
当期変動額									
剰余金の配当							26,807,312	26,807,312	26,807,312
当期純利益							12,762,244	12,762,244	12,762,244
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計							14,045,068	14,045,068	14,045,068
当期末残高	2,000,131	3,572,096	41,160,616	44,732,712	342,589	6,998,000	43,034,713	50,375,303	97,108,147

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	1,446,576	6,546	1,453,123	112,606,339
当期変動額				
剰余金の配当				26,807,312
当期純利益				12,762,244
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	48,009	6,546	41,462	41,462
当期変動額合計	48,009	6,546	41,462	14,003,605
当期末残高	1,494,586		1,494,586	98,602,734

## [注記事項]

## （重要な会計方針）

## 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

## (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

## (2) その他有価証券

## 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

## 時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

## 2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

## 3. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5年～50年

器具備品 2年～20年

## (2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

## 4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## 5. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

貸付金等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

## (3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

## (4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

## 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

## 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理することとしております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。

## （追加情報）

当社では退職給付制度を統合するため、平成28年9月21日に確定給付企業年金制度、退職一時金制度、確定拠出年金制度を改定し、同年10月1日より退職一時金制度、確定拠出年金制度を柱とした新制度に移行しております。この移行に伴い「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準委員会 平成14年1月31日 企業会計基準適用指針第1号）及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」（企業会計基準委員会 平成19年2月7日 実務対応報告第2号）を適用しております。

なお、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

## (5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

## (6) 時効後支払損引当金

時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。

## 6. ヘッジ会計の方法

## (1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。

## (2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...株式指数先物

ヘッジ対象...投資有価証券

## (3) ヘッジ方針

株価変動リスクの低減のため、対象資産の範囲内でヘッジを行っております。

## (4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

## 7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1) 消費税等の会計処理

税抜方式を採用しており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

## (2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

## [会計方針の変更]

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。

## [追加情報]

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当事業年度から適用しております。



## (貸借対照表関係)

## 1.有形固定資産の減価償却累計額

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
建物	467,206千円	539,649千円
器具備品	897,207千円	1,029,950千円

## 2.関係会社に対する主な資産・負債

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
預金	43,128,360千円	47,798,472千円
未収収益	52,753千円	46,963千円
金銭の信託	30,000千円	30,000千円
未払手数料	2,612,168千円	1,993,055千円
その他未払金	2,296,632千円	2,071,256千円
未払費用	442,340千円	456,748千円

## (損益計算書関係)

## 1.固定資産除却損の内訳

	第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
建物	254千円	2,392千円
器具備品	1,051千円	7,791千円
ソフトウェア	-	3,356千円
計	1,305千円	13,540千円

## 2.関係会社に対する主な取引

区分掲記した以外で各科目に含まれるものは次の通りであります。

	第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
支払手数料	15,120,269千円	13,862,465千円
受取利息	12,609千円	4,375千円
法人税、住民税及び事業税	3,980,844千円	4,204,969千円

## 3.減損損失

当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

第31期（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失
静岡県裾野市	遊休資産（不動産）	土地	35,031千円
東京都千代田区（本社）	遊休資産（美術品）	器具備品	7,041千円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を1つのグルーピングとしております。遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

前事業年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、土地、美術品については外部鑑定評価額により評価しております。

第32期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）

場所	用途	種類	減損損失
東京都千代田区（本社）	自社利用ソフトウェア（遊休資産）	ソフトウェア 仮勘定	48,575千円

当社は資産運用業の単一セグメントであるため、事業用資産に区別はなく、全社を1つのグルーピングとしております。遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度において、将来の使用見込みがなくなった自社利用ソフトウェアについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、回収可能価額として使用価値を用いておりますが、将来の使用見込みがないため、使用価値は零としております。

（株主資本等変動計算書関係）

第31期（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）

## 1.発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式（注）	124,098	87,483	-	211,581
合計	124,098	87,483	-	211,581

（注）普通株式の発行済株式総数の増加は、平成27年7月1日に、国際投信投資顧問株式会社との間で吸収合併方式による経営統合を行ない、同社の普通株式1株に対して当社の普通株式10.0497株を交付したことによる増加であります。

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成27年6月30日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	4,107,643千円
1株当たり配当額	33,100円
基準日	平成27年3月31日
効力発生日	平成27年6月30日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成28年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	26,807,312千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	126,700円
基準日	平成28年3月31日
効力発生日	平成28年6月29日

第32期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当事業年度増加 株式数（株）	当事業年度減少 株式数（株）	当事業年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	211,581	-	-	211,581
合計	211,581	-	-	211,581

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成28年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	26,807,312千円
1株当たり配当額	126,700円
基準日	平成28年3月31日
効力発生日	平成28年6月29日

## (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成29年6月28日開催の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

配当金の総額	26,595,731千円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	125,700円
基準日	平成29年3月31日
効力発生日	平成29年6月29日

## （リース取引関係）

借主側

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
1年内	678,116千円	678,116千円
1年超	2,651,815千円	1,973,699千円
合計	3,329,932千円	2,651,815千円

## （金融商品関係）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

資金運用については銀行預金、譲渡性預金または投資信託に限定しており、金融機関からの資金調達は行っておりません。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は主として投資信託であり、価格変動リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

内部管理規程に従って月次でリスク資本を認識し、経営会議に報告しております。なお、一部の投資信託の価格変動リスクに対して、デリバティブ取引を利用してヘッジしております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません(注2)参照)。

第31期(平成28年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	80,707,781	80,707,781	-
(2) 有価証券	2,728,127	2,728,127	-
(3) 未収委託者報酬	11,275,577	11,275,577	-
(4) 投資有価証券	24,054,542	24,054,542	-
資産計	118,766,029	118,766,029	-
(1) 未払手数料	4,866,423	4,866,423	-
負債計	4,866,423	4,866,423	-
デリバティブ取引( )	(3,459)	(3,459)	-

デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については( )で表示しております。

第32期(平成29年3月31日現在)

	貸借対照表 計上額(千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	69,212,680	69,212,680	-
(2) 有価証券	36,210	36,210	-
(3) 未収委託者報酬	10,076,022	10,076,022	-
(4) 投資有価証券	24,189,921	24,189,921	-
資産計	103,514,834	103,514,834	-
(1) 未払手数料	4,225,009	4,225,009	-
負債計	4,225,009	4,225,009	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項  
資 産

(1) 現金及び預金、(3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券、(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価額によっております。

負 債

(1) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
非上場株式	168,730	137,160
子会社株式	160,600	160,600
関連会社株式	159,536	159,536

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

また、子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第31期(平成28年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	80,707,781	-	-	-
未収委託者報酬	11,275,577	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	2,728,127	9,234,321	9,756,778	5,050
合計	94,711,487	9,234,321	9,756,778	5,050

第32期(平成29年3月31日現在)

(単位：千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	69,212,680	-	-	-
未収委託者報酬	10,076,022	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
投資信託	36,210	10,703,761	8,324,138	45,606
合計	79,324,912	10,703,761	8,324,138	45,606

(有価証券関係)

## 1. 子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式160,600千円、関連会社株式159,536千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

第31期(平成28年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	113,875	30,541	83,333
	債券	-	-	-
	その他	19,085,937	16,697,402	2,388,535
	小計	19,199,812	16,727,944	2,471,868
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	7,582,857	7,969,134	386,277
	小計	7,582,857	7,969,134	386,277
合計		26,782,669	24,697,079	2,085,590

第32期(平成29年3月31日現在)

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	17,778,798	15,302,336	2,476,461
	小計	17,778,798	15,302,336	2,476,461
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	債券	-	-	-
	その他	6,447,333	6,769,569	322,236
	小計	6,447,333	6,769,569	322,236
合計		24,226,131	22,071,906	2,154,225

## 3. 売却したその他有価証券

第31期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	5,649,814	424,605	52,623
合計	5,649,814	424,605	52,623

第32期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
株式	122,688	82,146	21,570
債券	-	-	-
その他	3,439,009	176,991	20,678
合計	3,561,698	259,137	42,248

## 4.減損処理を行った有価証券

前事業年度において、有価証券について85,823千円（その他有価証券のその他85,823千円）減損処理を行っております。

当事業年度において、有価証券について157,482千円（その他有価証券のその他157,482千円）減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合、及び30%以上50%未満下落し、回復可能性等の合理的反証がない場合に行っております。

（デリバティブ取引関係）

第31期（自平成27年4月1日至平成28年3月31日）

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

重要な取引はありません。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

（単位：千円）

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
原則的処理方法	株式指数先物取引 売建	投資有価証券	945,410	-	3,459
合計			945,410	-	3,459

（注）時価の算定方法

大阪取引所が定める清算指数によっております。

第32期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）

重要な取引はありません。

（退職給付関係）

1.採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度（積立型制度）及び退職一時金制度（非積立型制度）を設けております。また確定拠出型の制度として、確定拠出年金制度を設けております。

2.確定給付制度

(1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	第31期 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）	第32期 （自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）
退職給付債務の期首残高	263,476 千円	2,997,931 千円
勤務費用	135,457	199,166
利息費用	19,818	22,711
数理計算上の差異の発生額	113,714	40,934
退職給付の支払額	159,115	183,403
過去勤務費用の発生額	-	653,618
合併による増加	2,624,579	-
退職給付債務の期末残高	2,997,931	3,649,089



## (2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	196,439 千円	2,678,827 千円
期待運用収益	35,926	47,553
数理計算上の差異の発生額	111,449	7,066
事業主からの拠出額	210,960	107,823
退職給付の支払額	139,379	142,532
合併による増加	2,486,329	-
年金資産の期末残高	2,678,827	2,698,738

## (3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
積立型制度の退職給付債務	2,422,447 千円	3,471,120 千円
年金資産	2,678,827	2,698,738
	256,380	772,381
非積立型制度の退職給付債務	575,484	177,969
未積立退職給付債務	319,103	950,350
未認識数理計算上の差異	310,139	207,810
未認識過去勤務費用	-	615,490
貸借対照表に計上された負債と資産 の純額	8,964	127,049
退職給付引当金	508,142	590,154
前払年金費用	499,178	463,105
貸借対照表に計上された負債と資産 の純額	8,964	127,049

## (4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第31期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	第32期 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
勤務費用	135,457 千円	199,166 千円
利息費用	19,818	22,711
期待運用収益	35,926	47,553
数理計算上の差異の費用処理額	13,847	54,327
過去勤務費用の費用処理額	-	38,127
その他	65,395	28,533
確定給付制度に係る退職給付費用	198,592	295,314

(注) 「その他」は受入出向者に係る出向元への退職給付費用負担額等です。

## (5)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
債券	58.1 %	62.9 %
株式	35.5	33.3
その他	6.3	3.7
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6)数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
割引率	0.077 ~ 0.71%	0.061 ~ 0.90%
長期期待運用収益率	1.5 ~ 1.8%	1.5 ~ 1.8%

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度142,480千円、当事業年度146,421千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
繰延税金資産		
減損損失	475,116 千円	455,165 千円
投資有価証券評価損	238,391	242,551
ゴルフ会員権評価損	295	295
未払事業税	185,473	124,367
賞与引当金	272,346	260,374
役員賞与引当金	-	11,509
役員退職慰労引当金	51,071	50,969
退職給付引当金	155,593	180,726
減価償却超過額	29,059	19,277
委託者報酬	204,395	217,902
長期差入保証金	6,344	14,803
時効後支払損引当金	78,725	77,490
連結納税適用による時価評価	309,675	236,450
その他	69,525	68,614
繰延税金資産 小計	2,076,013	1,960,499
評価性引当額	-	-
繰延税金資産 合計	2,076,013	1,960,499
繰延税金負債		
未収配当金	1,228	-
前払年金費用	152,848	141,802
連結納税適用による時価評価	1,516	1,447
その他有価証券評価差額金	639,013	659,638
繰延ヘッジ損益	2,889	-
その他	6	3
繰延税金負債 合計	797,502	802,893
繰延税金資産の純額	1,278,511	1,157,605

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	第31期 (平成28年3月31日現在)	第32期 (平成29年3月31日現在)
法定実効税率 (調整)	33.06 %	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
評価性引当額の減少	6.34	
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.59	
その他	0.02	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.33	

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

第31期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)及び第32期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[関連情報]

第31期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)及び第32期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

投資信託の受益者の情報を制度上把握していないため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (関連当事者情報)

## 1. 関連当事者との取引

## (1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主等

第31期（自平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	東京都千代田区	2,141,513 百万円	銀行持株会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税 役員の兼任	連結納税に伴う支払	3,980,844 千円	その他未払金	2,296,632 千円
親会社	三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区	324,279 百万円	信託業、銀行業	被所有 直接 51.0%	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等 事務所の賃借 投資の助言 役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払 事務所賃借料 長期差入保証金の返還 投資助言料	5,895,622 千円 223,695 千円 885,549 千円 515,287 千円	未払手数料 未払費用	805,721 千円 319,698 千円
主要株主	(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	被所有 直接 15.0%	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等 取引銀行	投資信託に係る事務代行手数料の支払 コーラブル預金の預入 コーラブル預金に係る受取利息	9,224,647 千円 35,000,000 千円 9,263 千円	未払手数料 現金及び預金 未収収益	1,806,446 千円 35,000,000 千円 2,372 千円

## 第32期（自平成28年4月1日至平成29年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	東京都千代田区	2,141,513 百万円	銀行持株会社業	被所有 間接 100.0%	連結納税 役員の兼任	連結納税に伴う支払	4,204,969 千円	その他未払金	2,071,256 千円
親会社	三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区	324,279 百万円	信託業、 銀行業	被所有 直接 51.0%	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払	5,983,874 千円	未払手数料	716,117 千円
						投資の助言 役員の兼任	投資助言料	662,992 千円	未払費用	352,297 千円
主要株主	(株)三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区	1,711,958 百万円	銀行業	被所有 直接 15.0%	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払	7,878,591 千円	未払手数料	1,276,937 千円

## (注) 取引条件及び取引条件の決定方針等

連結納税については、連結納税制度に基づく連結法人税の支払予定額であります。

投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

事務所敷金及び賃借料については、市場実勢等を勘案して決定しております。

投資助言料については、市場実勢等を勘案して決定しております。

預金利率の条件は、市場金利等を勘案して決定しております。なお、預入期間は1年であります。

上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

(2)財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等  
第31期(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJ モルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払	6,398,782 千円	未払手数料	898,096 千円

## 第32期(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
同一の親会社を持つ会社	三菱UFJ モルガン・スタンレー証券㈱	東京都千代田区	40,500 百万円	証券業	なし	当社投資信託の募集の取扱及び投資信託に係る事務代行の委託等	投資信託に係る事務代行手数料の支払	6,532,238 千円	未払手数料	933,908 千円

## (注)取引条件及び取引条件の決定方針等

投資信託に係る事務代行手数料については、商品毎に、過去の料率、市場実勢等を勘案して決定しております。

上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

## 2.親会社に関する注記

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(東京証券取引所、名古屋証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

三菱UFJ信託銀行株式会社(非上場)

## （1株当たり情報）

	第31期 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）	第32期 （自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）
1株当たり純資産額	532,213.85円	466,028.30円
1株当たり当期純利益金額	66,691.34円	60,318.47円

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第31期 （自平成27年4月1日 至平成28年3月31日）	第32期 （自平成28年4月1日 至平成29年3月31日）
当期純利益金額（千円）	12,660,003	12,762,244
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る当期純利益金額（千円）	12,660,003	12,762,244
普通株式の期中平均株式数（株）	189,829	211,581



#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

#### 5【その他】

定款の変更等

定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

訴訟事件その他重要事項

該当事項はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

## (1) 受託会社

名称	資本金の額（百万円） 平成29年3月末現在	事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法。以下同じ。）に基づき信託業務を営んでいます。

<再信託受託会社の概要>（平成29年3月末現在）

名称：日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金：10,000百万円

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、兼営法に基づき信託業務を営んでいます。

## (2) 投資顧問会社

名称	資本金の額 平成28年12月末現在	事業の内容
CIMBプリンシパル・アセット・マネジメント（S）プライベート・リミテッド	2.5百万 シンガポール・ドル	各種の証券を購入、売却、交換および取引することを含む投資運用業務を営んでいます。

## (3) 販売会社

名称	資本金の額 （平成29年3月末現在）	事業の内容
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,711,958百万円	銀行業務を営んでいます。
カブドットコム証券株式会社	7,196百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	48,323百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
高木証券株式会社	11,069百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
楽天証券株式会社	7,495百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	40,500百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

## 2【関係業務の概要】

- (1) 受託会社  
ファンドの財産の保管および管理等を行います。
- (2) 投資顧問会社  
マザーファンドの運用に係る助言および情報提供を行います。
- (3) 販売会社  
受益権の募集の取扱い、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、一部解約金および償還金の支払いの取扱い等を行います。

## 3【資本関係】

委託会社と関係法人の主な資本関係は次の通りです。（平成29年6月末現在）

三菱UFJ信託銀行株式会社は委託会社の株式の50.97%（107,855株）、株式会社三菱東京UFJ銀行は15.00%（31,757株）を所有しています。

（注）関係法人が所有する委託会社の株式または委託会社が所有する関係法人の株式のうち、持株比率が3%以上のものを記載しています。

### 第3【参考情報】

ファンドについては、金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる以下の書類を提出しています。

平成28年12月21日	臨時報告書
平成29年3月7日	有価証券報告書 有価証券届出書の訂正届出書
平成29年3月29日	臨時報告書

## 独立監査人の監査報告書

平成29年6月28日

三菱UFJ国際投信株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 弥永 めぐみ	印
--------------------	--------------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 山田 信之	印
--------------------	-------------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている三菱UFJ国際投信株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第32期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、三菱UFJ国際投信株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年7月12日

三菱UFJ国際投信株式会社  
取締役会御中

## PwCあらた有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 柴 毅 印  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 大畑 茂 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアジア・オセアニア好配当株オープン（毎月決算型）の平成28年12月13日から平成29年6月12日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アジア・オセアニア好配当株オープン（毎月決算型）の平成29年6月12日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

三菱UFJ国際投信株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）上記は、委託会社が、独立監査人の監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は委託会社が別途保管しております。なお、XBRLデータは監査の対象に含まれていません。